

# Jahresbericht 49

JAPANISCH-DEUTSCHE GESELLSCHAFT  
WESTJAPAN



年報 第49号

令和7年11月

 西日本日独協会

FUKUOKA JAPAN 2025



# 目 次

挨拶	
ご挨拶	岡嶋 泰一郎…………… 1
報告・感想	
日本の唱歌とドイツ民謡の不思議な関係	佐藤 慶治…………… 2
ナチ迫害の個別的慰霊碑としての「つまずきの石」	栗山 次郎…………… 8
鈴木結生講演会 「私のゲーテ Mein Goethe」 (2025年5月17日、於：西部ガス・パピヨン24)	田口 武史…………… 13
ウィーンを語る ～外交・民族・歴史・文化・音楽～	谷口 博文…………… 16
報告：第14回福岡で楽しむEU	宮崎 亮…………… 20
寄 稿	
ベルリンの壁崩壊時に壁の上から独占中継	立花 雅子…………… 21
日独対話・交流会	宮崎 亮…………… 24
ドイツ農民戦争500年	宮崎 亮…………… 25
連載エッセイ	
ドイツ語こぼれ話①、②	高柳 英子…………… 31
会員だより	
新入会員自己紹介……………	34
事務局報告	
I. 2024年度会員動向 ……………	35
II. 2024年度活動報告 ……………	35
III. 2024年度協会収支決算報告、留学生基金収支決算報告および会計監査報告 ……………	37
IV. 2025年度活動計画 ……………	39
V. 2025年度協会会計収支予算 ……………	39
2025 年度役員等名簿    ……………	41
西日本日独協会会則    ……………	42
会員名簿    ……………	43
編集後記    ……………	44

---

## ●広告一覧

西部ガス ……………	ii
同学社 ……………	19
城島印刷株式会社 ……………	41

# 西部ガスぐるぐるグループは、西部ガスぐるぐるグループ。

地球と、暮らしに、いい循環をつくるために。

資源をぐるぐる。

カーボンニュートラルを進め、循環型の社会を目指します。

まちをぐるぐる。

行政やパートナー企業と連携し、賑わいのあるまちづくりに取り組みます。

人をぐるぐる。

グループ内の人財交流を活性化し、変革をリードする人財を育成します。

みんなを巻き込んで、しあわせの循環をつくっていききたい。

西部ガスぐるぐるグループです。

西部ガスグループ

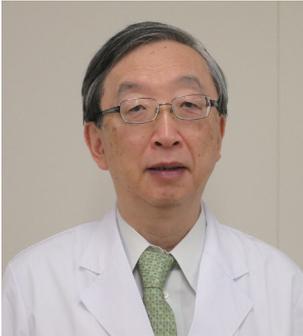


 西部ガスグループ

## ■ 挨拶

### ご挨拶

西日本日独協会会長 岡嶋 泰一郎



酷暑であった夏がおさまり、やっと秋を感じるようになりました。朝夕のさわやかさが、心からありがたく思えます。

日独協会の会員の皆様には、お変わりなくお過ごしでしょうか？ 気候変動のみならず、国内外の、不穏な社会や政治情勢に、心を痛めることが多くなりました。世界に平和が到来することを、心から祈るばかりです。

そのような中、会員の皆様の暖かいご支援により、西日本日独協会の活動は、つつがなく行われました。例会、懇親会など、会員の皆様の親交を深める行事が開催され、また田口先生を編集委員長とする編集委員会の皆様のご尽力により、年報第49号も刊行の運びにいたりしました。興味ある原稿ばかりで、大変楽しい年報が、できあがりしました。ご寄稿いただいた著者の皆様方に、心より、感謝申し上げます。

さて、私が日独協会に入ったころ、例会、懇親会は呉服町の三鷹ホールで行われていました。その後、三鷹ホールは入居していたビルの取り壊しにともなって、なくなってしまいました。ホールの規模から、アットホームな例会が催され、たくさんの暖かい思い出がのこりました。例会のあと、まだお話をしたい方たちは、近くの喫茶店「シャポー」に寄ってコーヒーを飲みながら語り合いました。幸福な時間を過ごすことができた呉服町の「シャポー」も、ビルの建て替えとともに最近、閉めてしまいました（アクロスの中のお店は続いています）。福岡市がリニューアルされていく中で、思い出を作ってくれたさまざまな場所が失われていくのは、とても寂しく思います。ドイツの街のように、建物や街並みなど、古いものを温存しながら、機能がリニューアルされていく様子をみていると、うらやましくなります。

なんだか寂しいご挨拶文になってしまいました。定年で「きょうよう」と「きょういく」が減ってしまったからでしょうか。「きょうよう」は「今日、用があること」、「きょういく」は「今日、行くところがあること」です。

最近の日独協会は、若い人や年配の人、それに高齢の人、皆様が元気に溢れ、活気のある会となっています。WEBによるオンライン講義も行われ、ドイツ語教室も盛んに行われています。日独協会の例会は、わたしにとって、まさに「きょうよう」かつ教養であり、「きょういく」かつ教育なのです。日独協会の暖かい思い出づくりのために、会員の皆様と力を合わせ、より楽しい会をめざして進んで行きたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

## 日本の唱歌とドイツ民謡の不思議な関係

佐藤 慶治

【10月例会報告】

R.6. 10. 26. (土)

\*オンライン卓話、講演時のスライド資料を抜粋して掲載します。

### 日本の唱歌とドイツ民謡の不思議な関係

鹿兒島国際大学福祉社会学部児童学科 准教授  
博士(比較社会文化)  
佐藤慶治 1

### 自己紹介②

研究のきっかけになったこと・・・

♪高校から声楽を始めて、《ローレライ》やヴェルナーの《野ばら》などのドイツ民謡・ドイツ歌曲に接したとき、そのメロディにとても“なつかしさ”を感じたこと。

♪祖母がドイツ民謡が好きで、よく家で口ずさんでいたが、自分の知っている翻訳とは違う翻訳や、または全く知らない翻訳歌詞で歌っていることがあった。  
(例：ブラームスの《日曜日》→「つめばよかった、遠慮が過ぎた」という歌詞。《野ばら》→「山際しらみて」という歌詞)

### 自己紹介: 佐藤慶治

#### 【専門】

声楽(大学での専攻)

音楽教育理論・歴史(大学院修士課程、博士課程での研究)

保育実践(2017年度に保育士として勤務)

その他、小学校での非常勤や老人ホームでの音楽活動など

#### 【研究分野】

演奏...ドイツ歌曲や日本歌曲、日本の「こどものうた」など

音楽教育...音楽教育史の研究、保育実践、音楽科授業研究

実践研究...保育現場における「こどものうた」の活用  
ICTを活用した教材開発

### 佐藤慶治

#### 「明治期の唱歌教育における翻訳唱歌と国民形成」

#### 序章 研究の概要と課題

- 第1節 研究の視点
- 第2節 先行研究、問題意識と研究課題

#### 第1章 国民形成と「翻訳唱歌」

- 第1節 国民国家論：明治期の国民形成と翻訳
- 第2節 コントラファクトゥアに見る「翻訳唱歌」の源流

#### 第2章 『小学唱歌集』— 歌詞分析を中心に—

- 第1節 唐澤富太郎の歌詞分類
- 第2節 ルーサー・ホイテイング・メーソンの教科書との比較
- 第3節 「翻訳唱歌」の分析：君が代、忠君愛国、教訓
- 第4節 「翻訳唱歌」の分析：自然

#### 第3章 民間製唱歌集における西洋文化の受容と改変

- 第1節 大和田建樹の『明治唱歌』における「高尚の域」
- 第2節 伊澤修二の『小学唱歌』におけるジェンダー観
- 第3節 田村虎蔵の『幼年唱歌』と『少年唱歌』：「教科統合」の受容

#### 終章 明治期を通じた唱歌教育の発展と「翻訳唱歌」

- 第1節 『尋常小学唱歌』における結実
- 第2節 結びに代えて

主要な参考文献のリスト

全180ページ、佐藤慶治：2017年3月  
「九大コレクション」：成果文献：学位論文

<http://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/recordID/1831394?hit=1&caller=xc-search>

## 唱歌とは？



・堀内敬三(作曲家・音楽評論家)による定義

→「初等・中等の学校で教科用にもちいられ、日本語でうたわれる、主として洋楽系の短い歌曲」で、歌詞は「教訓のおよび(あるいは)美的な内容を持ち」、曲は「欧米の民謡・賛美歌・学校唱歌および平易な芸術的声楽曲からそのまま」とられるか、もしくは「それらの型によって邦人の創作した小歌曲、および少数の日本民謡やわらべうたをふくむ」  
『日本唱歌集』(岩波書店、1958) p. 240

・1872年の「**学制**」→日本で最初の近代的学校制度を定めた教育法令の発布により、小学校の一教科として「唱歌」が定められた。  
→西洋の学校制度の模倣であり、この時点では教科書や教師もなく有名無実な教科である。「当分乏を欠く」と注付けされていた。

5

## 蝶々



ドイツの古い童謡「Hänschen klein」(訳:「小さなハンス」という曲が原曲とされている。これはドイツ東部・ドレスデンの教師だったフランツ・ヴィーデマン(Franz Wiedemann, 1821年 - 1882年)が作詞したものである。この歌詞には、子供たちに別離・出発・悲しみからの回復を経験させるという**教育上の目的**があった。1番で幼い「ハンスちゃん」(Hänschen)が旅に出て母親が見送り、2番で7年の放浪と遍歴の末に「ハンスちゃん」は日焼けした大人の「ハンス」(Hans)へと変わり、3番ですっかり大きくなったハンスが故郷に戻り、あまりの変わり様にだれにもハンスだと分かってもらえないが、再会した母親はすぐにハンスだと分かってくれた、という内容である。

8

## 研究の概要と方法

キーワード:「翻訳唱歌」、「教育思想の輸入と改変」

種々の研究では、唱歌教育が明治期の日本において、近代的国民国家の創出に関する役割の一翼を担っていたとされている。

→伊澤修二が長に据えられ、音楽教育政策を担当していた文部省・音楽取調掛は、唱歌の歌詞に教育(徳育)要素を組み込むことにより、国民国家という意識の低かった明治初期の日本において、「国民形成」を行う意図があった。

《蛍の光》や《仰げば尊し》など、外国語(西洋)の楽曲を原曲に持つ唱歌は、特に「**翻訳唱歌**」と呼ばれる。この歌詞については、「翻訳」と言っても翻案であったり、もしくは全く原曲歌詞と違う内容のものもあった。

→「翻訳唱歌」の歌詞と原曲の歌詞を中心に、西洋教育思想・文化と唱歌教育を比較考察し、どのような改変があるかを分析する。その差異より当時の唱歌教育における文部省の教育意図を探ることができる。

6

## 小さなハンス

Hänschen klein ging allein  
In die weite Welt hinein.  
Stock und Hut steht ihm gut  
Ist gar wohlgenut.

Aber Mutter weinet sehr,  
Hat ja nun kein Hänschen  
mehr.

“Wünsch dir Glück”, sagt  
ihr Blick,  
“Kehr nur bald zurück!”

小さなハンスは、  
たった一人で広い世界へ！  
ステッキと帽子がよく似合って、  
元気いっぱいだ。

だけどママは大泣き。  
小さな男の子はもういない。

「あなたの幸運を祈るわ」とママは  
言った。「早く帰ってきてね！」

9

## B. アンダーソンによる歌の位置づけ

たとえば国民的祭日に歌われる国歌を例にとろう。たとえいかにその歌詞が陳腐で凡庸であろうとも、この歌唱には同時性の経験がこめられている。正確にまったく同じ時に、おたがいまったく知らない人が、同じメロディーに合わせて同じ歌詞を発する。〔中略〕

我々は、我々が歌っているちょうどその同じときに、同じように、他の人々もまたこれらの歌をうたっているということを知っている。しかし、かれらが誰なのか、いやそれどころか、かれらが声の間こえないところで歌っていれば、どこで歌っているかすら、我々にはまるでわからない。我々すべてを結び付けているのは、想像の音だけなのだ。

『定本 想像の共同体 ナショナリズムの起源と流行』(書籍工房早山、2007) pp. 238-239.

7

## 昔の《ちょうちょう》歌詞は？

一 てふてふてふてふ葉の葉にとまれ  
なのほにあいたら桜にとまれ  
さくらの花のさかゆる御代に  
とまれよあそべあそべよとまれ

二 おきよおきよねぐらのすずめ  
朝日のひかりのさしこぬさきに  
ねぐらをいでてこず糸にとまり  
あそべよすずめうたへよすずめ

10

## 「翻訳唱歌」実例2:《祝え吾君を》

Musical score for '祝え吾君を' (Shioe Ugo no Kimi o). The score is in G major and 2/4 time. It features a vocal line and a piano accompaniment. The lyrics are written in Japanese and German.

賛美歌であるSong of the fatherland に対して、《祝え吾君を》の歌詞は、キリスト教で言うところの天の国における「神」を日本における「天皇」に置き換えたものであり、連の最後にそれぞれ「祝え祝え〜」、「神の手で休め、敬愛する父なる国」Rest in his own hand, dearest fatherland. という歌詞が入っているなど、共通する部分が多い。「祝え」という言葉は、「祝福」blestという言葉の翻訳であると推察できる。また、神や天皇の恩恵によってそれぞれの国が成り立っているという全体的な歌詞のストーリーも一致するものである。

11

## 『小学唱歌集』より:《ねむれよ子》

Musical score for 'ねむれよ子' (Nemure yo ko) from 'Sho Gakko Shu'. The score is in G major and 2/4 time. It features a vocal line and a piano accompaniment. The lyrics are in German.

- 一 ねむれよ子、よくねるちごは、ちちのみの、父のおおせや、まもらん、ねむれよ子
- 二 ねむれよ子、よくねるちごは、ははそばの、母のなさげや、したふらん、ねむれよ子
- 三 ねむれよ子、よくねておきて、ちちははの、かはらぬみ顔、おがみませ、ねむれよ子

14

### 《父なる国の歌》

- 1 父なる国、神の手で休め。我らは誇りを持ってそなたの名前を言う、ああ、その何と魅力的な響き。我々はその価値が大いに賞賛されるのを聴くとき、歓喜が胸の内て高まる。神の手によって、そなたが害悪より守られんことを。神の手で休め、敬愛する父なる国。
- 2 甘い休息とともに、そなたも祝福されるように。そなたと共にある喜びは、永遠に栄える。平和な野を守れ。神を信用することがそなたの努力であるように。その他の幸福は必ず終わりがある。神はなんじの喜びの傍におられる。神の手で休め、敬愛する父なる国。
- 3 正義の道は、迷いとは無縁である。我々の法が全て守られる時、神は困っている者を救うだろう。そして、真実が我々の心を導く時、我々の行いは祝福を得る。これらの求道は、神の真実へとつながる。神の手で休め、敬愛する父なる国。

### 『小学唱歌集』第八十八《祝え吾君を》

- 一 祝え吾君を、恵の重波、やしまにあふれ、普ねきはる風、草木もなびく、祝え祝え、国のため、わがきみを
- 二 祝え吾くにを、みずほのおしねは、野もせにみちて、白かねこがね、花さき栄ゆ、いわえいわえ、君の為め、吾国を

12

## 「翻訳唱歌」実例3:《ねむれよ子》

Musical score for 'ねむれよ子' (Nemure yo ko) from 'Sho Gakko Shu'. The score is in G major and 2/4 time. It features a vocal line and a piano accompaniment. The lyrics are in Japanese.

原曲では子守歌の形式を持ちながらも、3番の歌詞にキリスト教的内容が打ち出されているのに比べ、唱歌の歌詞は原曲1番の内容を表面上参考にして拡大したものである。「父」fatherと「母」motherという言葉がキーワードに、唱歌は、近世以前に儒教的教訓として表象化し、「教育勅語」など明治期の教育で重要視されていた「父母の恩」の大切さを、三連にわたって歌う内容になっている。

15

## 「翻訳唱歌」の評価

・音楽学者の中村理平は、『キリスト教と日本の洋楽』において、原曲のキリスト教的要素が意図的に取り込まれたと評価している(恩寵→恩)。

→賛美歌には主に捧げる献身と愛、そして主から受ける許しと慰めが大きな部分を占めている。明治政府がこれに目をつけられないわけがない。日本での「主」は、「主上」「大君」すなわち「天皇」にほかならない。神をあがめ神を敬う賛美歌の旋律と精神は歌詞を変えればそのまま天皇への帰依と服従、そして天皇からの慈悲を願う国民の魂の育成に通じる。

『キリスト教と日本の洋楽』(大空社、1996) pp.571-575.

13

## 「コントラファクトゥア」とは何だったのか？

・ルター→世俗歌曲の「美しい音楽に付いている流石的で馬鹿げた歌詞を置き換えることで、生き生きとした聖なる神の言葉」を伝える賛美歌にする。

・ドイツ語圏で最大級の音楽辞典である『音楽の歴史と現在』(MGG)では「パロディとコントラファクトゥア」というまとめた形で項目が成り立っている。  
→コントラファクトゥアについては、声楽曲の旋律の変更をせず新たな歌詞を付けること、そしてパロディについては、音楽芸術作品の本質は変えずに歌詞のみならず音楽的な変更も行うことであると説明されている。

16

## 「コントラファクトウア」とは何だったのか？

・ヴェルナー・フェリクスは、既存の楽曲を別の意味関連の中で再生させるやり方をパロディ、その中でも特に、世俗歌の旋律に新たな宗教的歌詞を付け、福音主義教会の賛美歌を作る手法をコントラファクトウアと位置づけている。

→後者の例として、ルターによる世俗歌曲の賛美歌化が挙げられており、プロテスタント陣営が最初から歌の役割を高く評価していたことが指摘されている。プロテスタントの基本的な理念として、前頁でも論じた「聖書の翻訳」に始まる「キリスト教の土着化」があり、民衆の世俗的な愛唱歌を賛美歌にすることによって、教義を民衆の日常にしみこませようとしたとも考えられる。

17

## Luther Whiting Masonとキリスト教



・ルーサー・ホワイティング・メーン編『国歌大系』は、読本と掛図で構成されており全三巻の読本は全215曲を掲載しているが、そのうち74曲がキリスト教的内容に基づいた教育的な歌詞をもつ楽曲である。またメーンは、来日する直前の1880年には、4冊の賛美歌集を刊行していた。

→メーンとアメリカン・ボード日本ミッションの密接な繋がりが、音楽学者の安田寛等の研究において指摘されている。安田によると、メーンは『小学唱歌集』を通じた日本へのキリスト教伝道を目指していたが、伊藤修二ら日本側が単なる西洋音楽の受容ではなく、日本の社会的背景に基づいた独自の「唱歌教育」を成立させたためその目論みは必ずしも成功しなかった。

・安田は『日本の唱歌と太平洋の賛美歌-唱歌誕生はなぜ奇跡だったか-』の中で、太平洋諸国における土着の世俗音楽を駆逐してきた「賛美歌」が、日本ではそのまま受容されず、「唱歌」が誕生したことを「奇跡」と称している。

→太平洋諸国と比較し、日本は教育権の自由度が高かったことなどが理由として挙げられているが、日本が「翻訳」に長けていたためという説明も可能なのではないかと

## ドイツにおける近代化と「翻訳」



・ドイツの国民国家形成を見てみると、ルターによる「聖書の翻訳」、ヘルダーの民謡収集、グリム兄弟による童話の収集などがエスニック要素を基にした近代的ナショナル・アイデンティティ形成の例として挙げられる。特に「聖書の翻訳」は他の欧州諸国にも波及をもたらした重要な出来事であり、政治学者の施光恒は「国語」と近代化の関連性について言及した上で、これを以下のように評する。

→おそらく宗教改革者たち自身も当初は予見していなかったことだろうが、聖書翻訳は、各地域の「土着語」の発達を大いに促した。〔中略〕各地域の「土着語」は、書き言葉としては未熟な言語で、抽象的な語彙がほとんどなく、文法も正書法も未整備だった。宗教改革者たちは翻訳を通じて、それぞれの「土着語」に新しい語彙を作り、文法を整備し、正書法を提案していった。〔中略〕各地の「土着語」は、宗教問題、道徳、歴史など抽象的で深遠な事柄を語ることのできる言語へと発達を遂げた。「普遍語（ラテン語）」で書かれた聖書を「土着語」に翻訳するという知的な営みは、ヨーロッパの各言語が「土着語」から「国語」と発展する契機となったのだ。

『高橋は忠義化 日本の能力が地に落ちる』(集英社新書、2015)pp. 53-54. 18

## 主要な参考文献

- ・唐澤富太郎『教科書の歴史』創文社 1956年
- ・山住正巳『唱歌教育成立過程の研究』東京大学出版会 1967年
- ・唐澤富太郎『教育の流れの中で』帝国地方行政学会 1973年
- ・金田一春彦編『日本の唱歌〔上〕』講談社 1977年
- ・東京藝術大学百年史刊行委員会編『東京藝術大学百年史東京音楽学校篇第一巻』音楽之友社 1987年
- ・手代木俊一『賛美歌・聖歌と日本の近代』音楽之友社 1999年
- ・山東功『唱歌と国語 明治近代化の装置』講談社 2008年
- ・奥中康人『国家と音楽 伊沢修二がめざした日本近代』春秋社 2008年
- ・渡辺祐『歌う国民 唱歌、校歌、うたごえ』中公新書 2010年
- ・松村直行『童謡・唱歌でたどる音楽教科書のあゆみ』和泉書店 2011年
- ・安田寛・櫻井雅人・ヘルマン・ゴチエフスキ『仰げば尊し 幻の原曲発見と『小学唱歌集』全軌跡』東京堂出版 2015年
- ・長谷川由美子『明治期唱歌集における西洋曲の研究』(筑波大学博士学位請求論文、2012)
- ・佐藤慶治『翻訳唱歌と国民形成』(九州大学出版会、2019)

20

## 【参加者コメント・質問】

・日本の近代国民国家の形成過程に、明治期、教育の場での唱歌が、「国民の一体化」「国民意識の醸成・高揚」という点で影響を及ぼしてきたことがわかりました。

→ありがとうございました。今でも当時の唱歌が「歌唱共通教材」として小学校の教科書に掲載されており、今でも国民の共通文化形成という意味で、影響があると考えております。

・一方で、長らく多くの領邦に分かれていたド

イツにおいて、日本の明治期と同様に、教育の場で「国民意識の醸成・高揚」に、ドイツ民謡がどの程度、使われたのでしょうか？それとの関連で、『Kulturhoheit』（文化高権）という考えが影響を与えたのでしょうか？また、この考えは、いつくらいからできたのでしょうか？政府（中央、地方）は、どの程度関与したのでしょうか？

→すみません、私はそのあたりのドイツ史はあまり詳しくないのですが、『仰げば尊し 幻の原曲発見と『小学唱歌集』全軌跡』でヘル

マン・ゴチェフスキ先生がそのあたりのことを書いておられるようです。引用文献も多いので、参考にさせていただきます。

- ・日本での《ふるさと》《赤とんぼ》などは国民全員が歌えますが、ドイツではこれらに該当するようなものとして、どのような歌がありますか？やはり、賛美歌になるのでしょうか？民謡でどのようなものがありますか？

→前にドイツ人留学生と話したときに聞いてみたことがあります。日本でいう《ぶんぶんぶん》や《山の音楽家》、《もみの木》、また《ちょうちょう》の原曲である *Hänschen klein* などは大変ポピュラーであるようでした。上記日本の2曲もそうですが、幼稚園や小学校で教わるということが、国民文化になるポイントの一つではないかと思います。

- ・日本の唱歌の基となったかどうかという点について、ドイツのカトリックの聖歌、プロテスタントの賛美歌とで、何か違いはあるのでしょうか？違いがあるとすれば、歌いやすさによるのか、それとも、来日した宣教師によるのでしょうか？

→唱歌の基になったという点ではプロテスタントの賛美歌の影響が強いです。音楽取調掛のお雇い外国人であったルーサー・ホワイティング・メーソン（ルーサーはドイツ語読みでルター）の影響が大きいようです。

- ・楽譜、歌唱を交えた楽しい講演でした。なお、私事、年齢を重ねるごとに声が低くなってきているように思います。高音をだせるようになるコツなどありますか？

→ありがとうございました。高音についてはトレーニングで出せるようになります。喉を楽にして、おなかの横に手をあて、少しそこを張り気味に、声を出されるといいです。のど

は力を入れない（閉まらない）ように、あくびの状態を意識してください。

- ・大変興味深い内容で、すてきな演奏も入り、楽しく拝聴しました。講演を聴きながら思い出したことがありました。以前、ドイツで活躍したエルンスト・ヘフリガーという高名なテノール歌手が、日本の歌をドイツ語に訳して歌ったCDがありました。不思議なことにドイツ語で歌われる唱歌は、全く違和感なく耳に入ってきました。とくに《ふるさと》は、あたかもドイツで作られた曲のように聞こえました。今回のご講演内容とは逆のパターンですが、言語の違いを超えて心に訴えかけてくる音楽の力の素晴らしさを、改めて感じました。ご講演の中で、東北大震災のあと、もっとも歌われた歌であることを知り、感動しました。どうもありがとうございました。御研究のさらなる発展をお祈りいたしております。

→ありがとうございました。私もヘフリガーは大好きです。おっしゃること大変よくわかります。例えば我々もドイツ語で歌われる《野ばら》や《ローレライ》などにある種のかなかしさを覚えますが、それはやはりメロディやコード進行への親しみからくるものかと思います。

- ・明治維新直後の日本では、国とは藩のことであり、庶民が遠隔地の人と交流する必要も無かったので、東北の藩と薩摩藩の間では円滑に会話が出来なかったというお話しは、わずか150年前のことなのに隔世の感を覚えました。

→ありがとうございます。メディアの発達の影響は、そのような部分にも影響をもたらしているという事例ですね。

- ・そこから、まだラジオもない時代に、数千万

人が日本国民としての自覚をもち、共通語で会話できる社会をつくる手段として、唱歌の持つ力に着目し、キリスト教の布教のためのコントラファクトゥーアなどを参考にしつつ、日本固有の唱歌教育を進化させてきた、教育関係者の先見性には驚きました。

→唱歌教育含め、やはり学校教育というものには大変力を入れていたようです。おっしゃるようにメディアツールがないため、共通のことを教えようとすれば、やはり「学校」という場が非常に重要だったようです（このあたり、欧米だとキリスト教会がありました）。「祝日大祭日唱歌」なども、各祝日に地域の人々が学校に集まって歌っていたようです。

・一方で、容易に国境を超えて伝播し、民心を掻き立て、政治体制さえ動かす巨大な力を秘めている「歌の力」を、プロパガンダに利用したり、逆にそれを阻止しようとする勢力、その媒介手段としてのテレビ、ラジオなどマスメディアの視点から国際化した現代社会を眺めてみると、歌はますます社会的重要性を増しているのだと改めて思いました。

→歌や音楽は人の心を動かし得るといえるのは、色々な事例があります。ナチスドイツにおけるワグナー音楽の使用、リソルジメント期のイタリアにおけるヴェルディのオペラなど。また、日本では規制がありませんが、海外ではニュースにBGM等をつけて放送するという点について議論が起こっている国もあるようです（バイアスをかけることができるため）。

・唱歌は、明治時代の軍隊と関係がありますか？軍隊の中で（軍歌としてではなくても）士気を高めたり、団結感を作り出すために歌われたりしたのでしょうか。

→軍隊ではまた別の楽曲が歌われていたようですが、流れとしては唱歌→軍歌という発展性

はあります。また例えば《広瀬中佐》などは『尋常小学唱歌』の掲載楽曲ですが、軍歌調で、その後の軍歌への流れを感じることができます。

・明治期に日本の国歌形成のなかで文化教育の充実が求められた、音楽教育はその一環であり、文部省唱歌にはドイツの民謡が取り入れられたという歴史についてのお話がとても興味深かったです。

→ありがとうございました。安田寛先生等の言説になりますが、天皇を中心とした国づくりを進めるにあたってキリスト教における教会等でのコミュニティ形成が参考にされたようです。

・「NHK みんなのうた」は、どんな歴史の変遷があったのですか。現代の小学校ではどのような扱いなのでしょう？

→1961年に開始し、初期は「うたごえ運動」やYMCA関連の楽曲、また海外の民謡なども盛んに放送されていました。この時期の特徴の一つとして、演奏者に児童合唱団が多く起用されていたということもあります。1970年代までその傾向が続きましたが、1980年前後よりだんだんとポピュラー系の楽曲も増え始め、1985年には制作部局がそれまでの青少年部より音楽芸能部に変更されます。小学校の教材となっている楽曲は、この1961～1980年代前半までの放送楽曲が多いようです（大きな古時計、グリーングリーン、クラリネットこわしちゃった等々）。教科書に「みんなのうた」楽曲が一番多く掲載されていたのは1980年代頃ですが、現在でも副教材の楽譜集は、かなりの割合で「みんなのうた」楽曲が掲載されています。

（さとう けいじ 鹿児島国際大学）

### はじめに

Nostalgie は昔を懐かしむ心情です。1990年のドイツ再統一後、旧東ドイツ市民がかつての東 (Ost) ドイツの事物 (例：トラバント) や制度 (例：静謐な老後) を懐かしむ心情を Ost と Nostalgie をかけて Ostalgie と言っていました。私はベルリンに何年か、そして何度か滞在したことがあるので、ベルリンを懐かしむことがあります。Berlinalgie といえるかもしれません。その Berlinalgie 故に時折ベルリンの地方紙の電子版を眺めますが、いつの頃からか記事のタイトルに Stolperstein を見かけるようになりました。「つまずきの石」って何だろう? と思って検索してみると全国紙にも関連記事が掲載されています。以後すこしずつ Stolperstein を調べるようになりました。以下はその報告です。

### 「つまずきの石」

動詞 stolpern の意味は具体的にも比喩的にも「つまずく」です。歩道に「つまずく」石を埋め込むとなると危険極まりません。しかもこの「つまずくための石を埋め込む危険な」芸術プロジェクトに多くの国の市民が賛同し参加しています。これはドイツ国民だけでなくヨーロッパ諸国の市民の悔恨と悔悟の「慰霊 (追悼)」プロジェクトです。このプロジェクトに賛同、参加してはいてもこの「つまずきの石」という名称に違和感を覚える人もたくさんいます。創案者のグンター・デムニッヒ Gunter Demnig 氏自身も、この名称を選んだ理由を思い出せない、といっているくらいで、さまざまに解釈されています。ある日埋め込みに参加していた高校生が通行人に「つまずきの石」の意味を聞か



写真番号1:「つまずきの石」の埋め込み作業中のデムニッヒ氏 © Andreas Winkelmann, Deutschland.

れた際に「この石につまずいて倒れ込むのではありません。前のめりになるのです、頭と心で。」と答えたそうです。デムニッヒ氏はこの回答が気に入っていて、説明に使っています。「つまずきの石」芸術活動は「危険なつまずきと倒れ込み」をもたらすのではなく、「オヤ?」と前のめりになって「これは何?」と頭で考える契機を呼び込む活動です。

### 発端

「つまずきの石」は芸術運動として始まり、芸術プロジェクトとして継続しています。1947年ベルリンに生まれてケルン在住の芸術家グンター・デムニッヒ氏 (写真番号1) が、1992年12月16日にケルンの旧市庁舎前の歩道に真鍮板を上面とするコンクリート製の石を埋め込みました。50年前の1942年12月16日にヒトラー政権下で辣腕を振るった親衛隊全国指導者ハインリッヒ・ヒムラーがジプシー (ロマ/シンティ) 問題の最終解決としてジプシーを強制収容所へ移送するよう命令したのを想起せしめ

るためです。この「つまずきの石」にはヒムラーの命令の第一項を刻印してあります。「つまずきの石」の歩道への埋め込みというナチ迫害の被害者を慰霊するこの形式は迫害慰霊の一つの形として少しづつ広がっていきます。

筆者は芸術観を語る柄ではありませんし、ここは芸術を論ずる場でもないのですが、デムニツヒ氏の活動を芸術プロジェクトと位置付ける理由を数行述べます。氏の活動の背景には社会彫刻論が指摘されています。この立場の芸術は個々の芸術作品にまたとない美や厳粛なる威厳を求める芸術ではありません。屋内で額縁に入っている絵画や屋外でことさらに展示されている彫像を「芸術鑑賞」する立場とは異なります。人間社会に痕跡を残す人間の行動が芸術であると解し、人間活動を「芸術」と観る立場です。ナチ迫害の被害者名を刻印して埋め込むという行動自体が芸術家デムニツヒの芸術なのです。デムニツヒ氏は社会を彫刻していく一環としてヒムラーのジプシーのアウシュヴィッツ移送指令を刻印した「つまずきの石」を歩道に埋め込んだのです。「つまずきの石」作成と埋め込み作業そのものを社会彫刻的に見た芸術と位置付けて自分を芸術家と定義しているのです。

### 「つまずきの石」の形態や趣旨

「つまずきの石」(写真番号2)は直方体です。上面は9.6 cm × 9.6 cm の正方形、高さ10 cm ですからほとんど立方体といえます。上面の真鍮板の上下辺は1 cm ほど、左右辺は7 mm ほどコンクリートに食い込んで、固定されています。真鍮板の最上行には「ここで働いていた」「ここで教えていた」「ここで学んでいた」「ここに住んでいた」等が、次の行に犠牲者の姓名が、次いで生年、拘束された日、送られた収容所名やそこに移送された後にその人に起こった事柄と没年などが刻印されています。強制収容所での死亡は、病没であっても、「殺された」と、自殺

は「死へ逃亡した」と、「亡命」は使用しないで「脱出」と、詳細が不明な場合には「運命不詳」と、強制収容所を生き延びた場合は「解放された」と書きます。「つまずきの石」は犠牲者が逮捕、連行される前に住んでいた、働いていた建物の入口や玄関前の歩道に埋め込まれます。

これらの刻印事項によってデムニツヒ氏が明らかにしようとしているのは (A) 犠牲者の姓名を彼らが自分の意志で活動していた場所にもたらし、(B) ユダヤ教の口伝律法タルムードの一節がいうように「人の存在が忘れられるのはその人の名前が忘れられた時である」ので、「ここには……さんが住んでいた」等と記憶を呼び戻し、(C) 収容所では個人名は奪われ番号化されていたのですが、その奪われていた個人名を取り戻し、個人の尊厳性を回復するところにあります。

なお、上記刻印事項と埋め込み場所は多くの「つまずきの石」に於いていえることで、これらのすべての項目がすべての慰霊石に当てはまるわけではありません。ナチのユダヤ人迫害の中で友人の忠告に従いロンドンに逃れた心理学者のジークムント・フロイトの「つまずきの石」がチェコにあります。これには Sigmund Freud 1915 とのみ刻印されています。フロイトが旅行で滞在したホテルの前に埋め込まれているのです。当該写真の転載許可が得られませんでしたし、URL はとても長いのでここには掲載しません。Stolperstein für Sigmund Freud vor dem Grandhotel Pupp im Kurviertel Karlsbad, Böhmen, Tschechien で検索してご確認ください。



写真番号2: エアフルト大学図書館の許可を得てそのホームページから借用 (Friedenstein Stiftung Gotha / Christoph Mauny.)

## 「つまずきの石」の例

アーヘンに住んでいてフランクフルト・アム・マインに移り住んだユダヤ人のフランク一家はナチの政権掌握後にユダヤ人迫害を逃れてオランダのアムステルダムに隠れ住むのですが、ドイツの親衛隊に見つかり強制収容所に送られます。戦後になって次女のアンネが書き残した日記が発見され世界的なベストセラーになりました。そのアンネ・フランクの「つまずきの石」はアーヘンとアムステルダムの両方にあります。写真番号3はアムステルダムの「つまずきの石」です。「ここに住んでいた、アンネ・フランク、1929年生、1942年7月6日隠れ住む、1944年8月4日逮捕、ヴェスタボルク経由アウシュヴィッツ移送、1945年3月ベルゲン・ベルゼンで殺される」と記載されています。

写真番号4は1938年にダッハウに収容されたが、翌年逃亡し、迫害を生き延びた人の慰霊「つまずきの石」です。



写真番号3：アムステルダムのアンネ・フランクの「つまずきの石」([https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Stolperstein\\_f%C3%BCr\\_Anne\\_Frank\\_%28Amsterdam%29.jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Stolperstein_f%C3%BCr_Anne_Frank_%28Amsterdam%29.jpg), ©Christian Michelides.)



写真番号4：  
([https://de.m.wikipedia.org/wiki/Datei:Stolperstein\\_f%C3%BCr\\_Dr.\\_Rudolf\\_Fromm\\_%28V%C3%B6lklingen%29.jpg](https://de.m.wikipedia.org/wiki/Datei:Stolperstein_f%C3%BCr_Dr._Rudolf_Fromm_%28V%C3%B6lklingen%29.jpg), ©Christian Michelides.)

写真番号5はユダヤ人で精神障がい者でもあった人の「つまずきの石」です。この人は1934年以来療養所に入っていたのですが、40年11月に移送されその日に殺されています。これは Aktion T4 (アクションT4) という労働できない人の抹殺を目的にしていた殲滅指令に従って実行されています (この Karl Klaar 氏と Aktion T4 については説明が <https://www.erfurt.de/ef/de/service/aktuelles/pm/2024/147883.html> にあります)。



写真番号5：  
(© Stadtverwaltung Erfurt)

ウィーンに精神疾患を患っていた小児や不登校などの問題を抱えた子ども用の小児精神科養護施設があったのですが、この施設で Aktion T4 によって789人の児童が「安楽死」させられています。「安楽死」は unbrauchbar (役に立たない)、lebensunwert (生きる価値がない) と判断された人に加えた虐殺です。拙卓話の後に知ったことですが、このウィーンの養護施設での Aktion T4 による「安楽死」については西日本日独協会会員の船津邦比古先生が詳細な資料を作成されています。私もその資料に教えられました。Aktion T4 の犠牲者は7万人余とされていますから、これらの数字が実態を示しているのであれば、この養護施設だけで Aktion T4 の犠牲者の約1%を虐殺したことになります。

## 費用と作業の進展

「つまずきの石」は多くの場合、犠牲者の係累や関係者の申請に基づいてデムニツヒのチーム

が作成し埋め込みます。一つの作成と埋め込み費用はドイツ内では120ユーロ（約2万円）です。一つの埋め込みに約20分をあてています。通例は埋め込み作業後簡単な追悼儀式があります。関係者たちが短いスピーチをし、バラの献花があります。

このナチ迫害者慰霊芸術プロジェクト「つまずきの石」運動が開始されたのは前述したように1992年ですが、以来2011年までにドイツ内だけで3万、2013年末にはヨーロッパで約千の地域に4万3千個、2014年8月末にヨーロッパ内18カ国に4万8千余、2015年1月中旬に5万余、2018年10月末に7万余、2022年1月で約二千カ所に9万個、2023年5月26日ニュルンベルクで10万個目を埋めています。デムニッヒ・チームからの今年2025年4月1日のメールによると、今年の3月末で31カ国に11万7千個以上埋め込んでいるのだそうです。

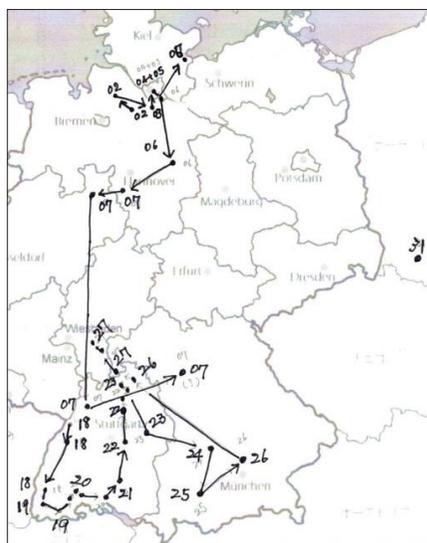
「つまずきの石」の作成は被迫害者の係累や関係者がデムニッヒ・チームへ申し込んで始まります。この申し込みは自治体の埋め込み許可取得を前提としています。申し込みから歩道への埋め込み作業までは通例は半年以上待たなければなりません。それ位申し込みが多いのです。同一地区での埋め込み作業は1年に1カ所と決めています。デムニッヒ・チームが直接埋め込んだことのある地区内ではチームが認めた代理人が埋め込み作業をすることも認めています。

2006年にデムニッヒ氏は特許を取り、商標登録もしています。2013年以降にはこれはヨーロッパで適用されています。デムニッヒ・チームしかこの慰霊石の作成も埋め込みも出来ないのです。

### 1ヶ月の埋め込み作業の例

デムニッヒ・チームは現在は6名のスタッフで工房内で毎月600個ほど作成し、各地に埋め込

んでいます。真鍮面への刻印は手仕事です (<https://www.youtube.com/watch?v=5KcJTKQfTki> でその様子を見ることが出来ます)。そしてデムニッヒ氏自身は週末も祝日もなく作業の日々を送っているようです。2021年10月の日録によれば1～7日には北西ドイツの12市町村（うち3日はハンブルク市内）で、18～27日には南西ドイツの23市町村で、31日にはポーランドで埋め込み作業をしています（地図の右端）。8～17日は工房で作成作業その他でしょうから、たしかに週末も休まない芸術活動ではあります。ドイツの白地図（写真番号6）にその埋め込み地の概略を書き込んでみました。数字は日付です。ハンブルクやカールスルーエのような知られている都市もあればウェブでも見つけるのに手間取る小さな村もあります。



写真番号6：

### おわりに

「つまずきの石」はナチによる被迫害者を慰霊する現在進行中の芸術活動です。そしてこの活動に関しては学術的論文や著述はほとんどありません。ジャーナリズムでの記事が多く、そのほとんどがウェブに掲載されています。本報

告も、一つ一つ挙げてはいませんが、多くのウェブページを利用してまとめています。ウェブのページは次々に消えていったり更新されたりするので、確実な資料とはいえませんが、その点をご了解ください。

このような中で、福岡で「つまずきの石」の朗読会が開かれたことがあります。西田リーバウ望東子氏は九州大学文学部教授だった西田越郎先生の娘さんでベルリンで活躍されています。その西田氏が昨2024年4月13日に日本キリスト教団福岡社家町教会で朗読会「伯林短歌 Berlin TANKA」を開かれました。その際にタイトルにあるように、ベルリンのお住まいの通りに埋め込まれている「つまずきの石」を詠んだ歌を紹介されました。この朗読会のパンフレットの表紙にも「つまずきの石」の写真が使われています。

写真番号7（西田リーバウ望東子氏提供）は西田氏のアパートの近くに埋め込まれている「つまずきの石」の1月27日の様子です。この日はアウシュヴィッツ解放の日で、近くに住んでいる人たちがこのようにロウソクを供え白バラを献花してナチの被害者を追悼しているのです。現在もなお増え続けている支援者や埋め込んだ後の周囲や関係者の配慮を見ると「つまずきの石」は市民レベルで続けられているナチ迫害者への個別慰霊碑であることが実感できます。

日独協会会員の皆さんはドイツやオーストリアに旅行されるチャンスをお持ちでしょう。そして訪れた街の歩道に「つまずきの石」を見か



写真番号7：

けることもあるかと思います。その折にこの報告を思い出していただけると幸いです。

追記：拙卓話を聞いていただいた方からの感想を会報編集委員経由でいただきました。この感想へのコメントは本文の記述に反映させました。ではありますが、感想への回答らしき文を本文で記述すると唐突の感のある文になりかねない危惧もありましたので、ここに追加記載いたします。

感想：「つまずきの石」とは何だろうか？と想像を巡らせています。

→「つまずきの石」という名称につきましては本文中に少し述べました。筆者は「つまずきの石」という表現はイエス・キリストに直結したキリスト教に関係する単語だと思っていましたし、「具体的な石を歩道に埋め込むと歩く人はつまずき危険ではあるまいか」といぶかしんでいました。このテーマでの記事を幾つか読み内容を確認するようになり、デムニツヒ・チームの「つまずきの石」をキリスト教の立場から解するのは間違いであるし、「つまずくために」埋め込むわけでもないことも知りました。ではありますが、個人的には「つまずきの石」という名称には馴染めないところがあります。犠牲者名を記名した慰霊石の上を踏みつけて歩くのを想像するとわだかまりもあります。わだかまりはありますが、「ケシカラン」と言い立てるほどではありません。ドイツのユダヤ人の中にはこの「わだかまり」を抱き続けていて「ケシカラン」と主張しているグループもあります。その主張は「つまずきの石」批判の一つに数えられています。

(2025/06/06 記)

(くりやま じろう 九州工業大学名誉教授)

田口 武史

第172回芥川賞を23歳の若さで受賞した鈴木結生氏は福岡市在住、作家活動と並行して、西南学院大学大学院にてシェイクスピア研究にも従事している。講演では、受賞作『ゲーテはすべてを言った』(朝日新聞出版、2025)の成立背景を中心に、「なぜゲーテなのか」「自分にとってゲーテとは何か」を語った。

### ゲーテとの出会い

鈴木氏はプロテスタント牧師の家庭に生まれ、幼少期より聖書に深く親しんだという。聖書を出発点として、少年時代はイギリスの小説、サマセット・モーム<sup>1)</sup>やチェスタトン<sup>2)</sup>、そしてなんといってもシェイクスピアを好んで読んでいた。その背景からすると、「シェイクスピアはすべてを言った」という作品が誕生する可能性もあった。しかし、われわれドイツファンとしてはなんともうれしいことに、彼はゲーテを選んだ。理由の一つが、中学生のころゲーテの代表作『ファウスト』<sup>3)</sup>を読み、その宗教的世界観に共感を覚えていたからだった。シェイクスピアを読んできた素地から戯曲形式にも

抵抗がなく、自然に入ってきたという。ただその後はゲーテの作品を集中的に読み進めるということではなく——ヘルマン・ヘッセの『ガラス玉遊戯』<sup>4)</sup>には強い感銘を受けたものの——ドイツ文学に関しては全般的に食わず嫌いの状態だった。

### 「大きな袋」を求めて

これに対し、思想に関してはドイツ語圏由来のものを盛んに摂取してきた。父親の影響もあってカール・バルト<sup>5)</sup>やカール・ヤスパース<sup>6)</sup>といったドイツの思想家の著作に触れ、世界の一切を許容し、いろいろなものを入れることのできる「大きな袋」のような概念に魅了された。しかし高校生活が終わるころ、現代社会ではそのような包括的思考がもはや十分機能しないのではないかと感じ、今の世界の中で私が考えることを、より現実的・具体的な言葉で形にしたいと考えるようになった。そこで愛を主題とした論文を書こうと思い立ち、総合図書館に通い、受験勉強そっちのけでプラトンなどを読みふけ

1) William Somerset Maugham (1874-1965)：代表作『人間の絆』『月と六ペンス』。

2) Gilbert Keith Chesterton (1874-1936)：「ブラウン神父」シリーズ、『木曜の男』などの探偵小説が人気を集めた。

3) *Faust* (1808/1832)：旧約聖書の「ヨブ記」を基本モチーフとするゲーテの戯曲。グレートヒェン悲劇で知られる第一部(1808)と、活動的生が時空を超えて経巡り、最後に救済のテーマへとたどり着く第二部(1833)とからなる。ゲーテは、ファウストという題材に何十間年も取り組み、ようやく死の直前に書き上げた。文字どおり畢生の大作である。主人公ファウストの飽くなき知識欲、行動への衝動は、近代人のあり方を鋭く問うている。

4) *Das Glasperlenspiel* (1943)：ヘッセが最後に発表した長編小説。この作品がノーベル文学賞受賞の決定打になると目される。鈴木氏はこの作品のほかにもヘッセ作品を愛好し、作品中に登場する猫たちに、ヘッセ『ナルチスとゴルトムント(知と愛)』にちなんだ名前を付けている。

5) Karl Barth (1886-1968)：スイスの神学者。ナチスに抵抗した。

6) Karl Theodor Jaspers (1883-1969)：哲学者(実存主義)、精神科医。ギリシアの哲学者たちや諸子百家、仏陀やパレスチナの預言者たちの登場した紀元前500年前後の数世紀を「枢軸時代」と呼び、これを巨視的にとらえようとした。

る日々を過ごした。

西南学院大学に入学すると、すぐに「新・コヘルトの言葉」と題する卒業論文に取り掛かった。〈多様性の統一性〉をテーマに、大きな枠組みを作ってその中にいろいろな項目を立てたうえで、一つ一つの項目の精度を高めてゆこうという野望を持った。大変気に入る文章もできつつあった。そんな中、鈴木氏はゲーテと再会する。受講したコミュニケーション学のレポート課題として、『ゲーテとの対話』<sup>7)</sup>をもとに、エッカーマンとゲーテの会話の中に自分自身を登場させる小説を書いたのである——『ゲーテはすべてを言った』の一場面に、それがほぼそのまま組み込まれている。しかし、執筆を進めながらも、それをただ教員や身近な人々に読んでもらうだけでは物足りないと感じていた。

そうこうしているうちに大学4年生となり、身の振り方を真剣に考えねばならない時期に至った。そこで、これまでは大きな事ばかりを考えてきたが、一旦集中して短いものを書いてやろうと覚悟を決め書いたのが、デビュー作『人にはどれほどの本がいるか』<sup>8)</sup>、これが第10回林芙美子賞に輝く。

### 小説『ゲーテはすべてを言った』の誕生

『ゲーテはすべてを言った』の着想は、鈴木氏の実体験に遡る。両親の結婚記念日で行ったイタリアン・レストランでのこと、英語でゲーテの名言が書かれたティーバッグを引き当てた父親が、「これはどういう意味？」と尋ねた。膨大な文学作品を読んできた鈴木氏だが、これには答えることができなかった。その時ふと、もしゲーテ研究の大家でも分からないとしたら、と

想像した。ずっと脳裏にあったこの想像は、やがて第二作目の基本設定に結晶化してゆく。だが作品とするには、いかにもありそうだが実際には存在しない「ゲーテの名言」を自分で作らねばならない。そこで氏は、なんと本物のゲーテ全集を読破しようと決意した。ひと月をかけて黙々とただゲーテの言葉を頭に入れていった。それはつらい試練ではあったが、今思い返してみると——小説の主人公「統一」の名言探しを先取りするように——発見の連続で、一読者として単純に楽しい経験だったと語る。

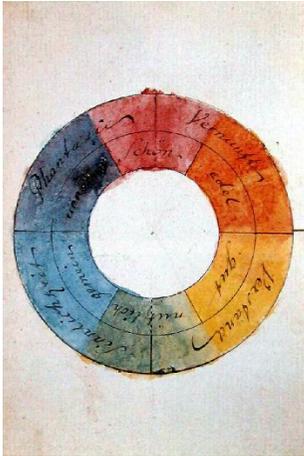
もう一つ、この小説の裏話を打ち明けてくれた。中学生の頃、所属していた美術部の顧問が転勤することになった。このとき鈴木氏は、はなむけの言葉のなかに「芸術は……だとゲーテも言っています」という趣旨のでっち上げを忍び込ませてしまった。先生は非常に感動していたそうだが、鈴木氏の心にはかすかに罪の意識が残った。この小説を書いている最中に、その記憶が蘇ってきたという。氏の書きぶりは、まさにゲーテ研究のスペシャリストを思わせる。しかし本当は、ゲーテ全集を読み始めてからわずか数カ月間に小説が出来上がったのである。それを知った芥川賞選考委員の島田雅彦氏が「なんだ、騙されたよ」と呟いたと、鈴木氏は嬉しそうに振り返るが、作品を支える「大きな袋」はまことに「すべて」と言いたくなるほど豊かなことばで満ち充ちている。その一端に触れ、読者もまた満たされてゆくのだ。

### 色彩論と構成

この作品の構成にはゲーテの『色彩論』<sup>9)</sup>が深く関わっている（本の装丁も『色彩論』から美しい数々の図像が採られている。絵画の腕も

<sup>7)</sup> Johann Peter Eckermann, *Gespräche mit Goethe in den letzten Jahren seines Lebens*. (1836/48) : 著者エッカーマンが、晩年のゲーテとの9年間にわたる対話を記録した作品。講演の中で鈴木氏は、漫画家の水木しげるがこの作品への愛着を語っていることにも言及した（『ゲゲゲのゲーテ』、双葉新書、2015）。

<sup>8)</sup> 『小説トリッパー』2024年春季号所収。トルストイの『人にはどれほどの土地がいるか』のオマージュ。



ゲーテの「色相環」

常人離れしている鈴木氏のセンスが、書籍中の随所に散りばめられていて楽しい。鈴木氏は全6章の各々に赤・橙・黄・緑などの色を割振った。そして、例えば赤は娘、オレンジは母、緑は娘の恋人

人といった具合で同じく色を割り当てた登場人物を、それぞれ対応する色の章の冒頭に登場させた——なんと執筆中、コンピュータ上の文字も各章のテーマカラーで表示していたとのことである。彼女たちが口にする物の描写にも、服装や音楽にも色の照応がある。これまで登場人物が具体的に「何を食べているか」「何を着ているか」という点に今一つ意味を見出せなかった鈴木氏は、この手法を用いることで初めて、リアリスティックな描写をスムーズに書き進められるようになったという。ゲーテが唱えた「対立する色は互いに惹かれ合う」という思想も、人物関係の設計に生かされた。

日頃、テキストの構造や表現上の仕掛けを必死に探っている文学研究者の立場からすると、こんなにあけすけに創作の秘密を打ち明けられると、なんともどきまぎしてしまう。数十年後、鈴木氏の作品を分析する研究者が、この講演録を読んで膝を打つことがあるやもしれぬ。生まれたばかりの文学について、作者本人からお話を伺うとは、なんと贅沢な機会であろうか。

## まとめ

鈴木氏にとってゲーテは「ファウストの作家」である。そして『ファウスト』は、間違いなくゲーテの最高傑作である。トーマス・マンが言うように、この作品は「内的には無限でありながら、外的には完成した作品」であり、どこまでも広がる無限の世界を包み込みながら、とにかく完結させたところに、他の作家ではなかなか見られないゲーテの力量を感じる。物書きとなった今読み返してみても、『ファウスト』には、まだわからないことがたくさんある。そして、今回ゲーテをモチーフに書いた『ゲーテはすべてを言った』をきっかけに、『ファウスト』を手にする読者がたくさんおられる、書いてよかったと鈴木氏は講演を締めくくった。

(たぐちたけふみ 会員、九州大学大学院)



<sup>9)</sup> *Zur Farbenlehre* (1810): ゲーテが長年にわたる研究成果に基づいて、独自の色彩論を提起した著作。ニュートンが示すような、分析的な自然観に対する批判が込められている。彼の描く〈色相環〉は、明と暗のダイナミズムから生まれる色彩を「一にして全」なる世界の表れとして示している(図参照)。

谷口 博文

## 1 はじめに

日独協会ではドイツだけでなくオーストリアの話をしてほしいと伺い、専門家を前に歴史や文化を語るのおこがましいとは思いつつも、自分の体験から見えてくるウィーンを今の世界情勢の中でもう一度見直してみたいと考えて、今回お話しさせていただきました。

私自身のドイツ語圏との縁は、最初が大蔵省に入省してすぐ1978年から2年間の西ドイツのフライブルク大学への留学です。東西冷戦のさなかで、ベルリンのまじの真ん中を壁が分断する非日常の世界を見てきました。2度目が1991年から3年間のウィーンの日本大使館勤務で、ちょうどベルリンの壁が崩壊した直後、東西の接点にあったウィーンからその後の歴史的イベントを目の当たりにしてきました。管見ながらこういった体験が今激動する世界情勢を読み解くヒントになるのではないかと考えている次第です。

## 2 多民族国家の首都としてのウィーン

ドイツ語圏の国はバイエルンとかチロルとかそれぞれ独自色のある文化を持った地域の集まりですが、ハプスブルク家全盛のウィーンはドイツ語だけでなくチェコ語、クロアチア語などのスラブ語やハンガリー語等、様々な言語を話す人々を包含する多民族国家の首都でした。皇帝フランツ・ヨーゼフ統治下のオーストリア＝ハンガリー二重帝国時代の版図は、ハンガリー、ボヘミア・モラヴィア（チェコ）、スロベニア、クロアチア、ボスニアから、今のウクライ

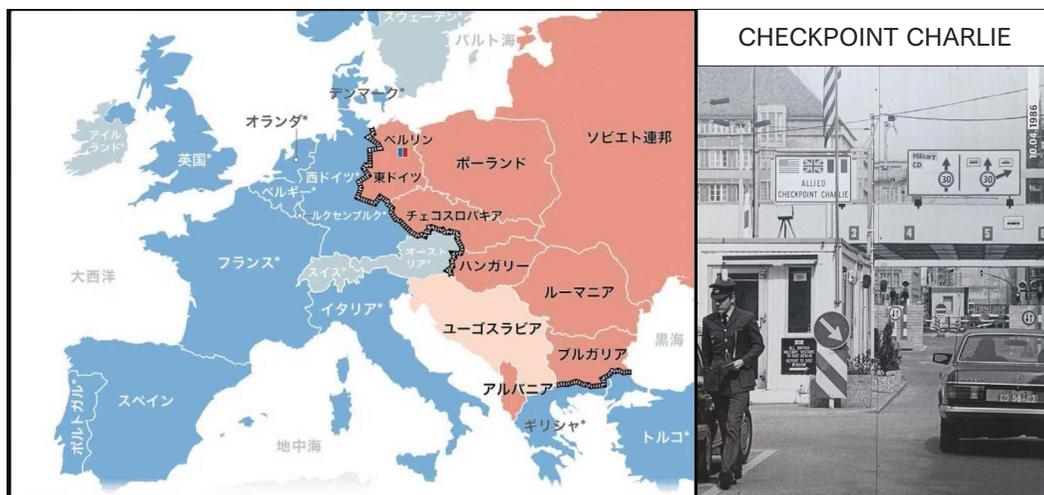


ナ、ポーランド、ルーマニアの一部にまで広がります。

だからウィーン・オペレッタには例えばバダペスト（『マリツァ伯爵夫人』）、モンテネグロ（『メリー・ウィドウ』）、ティミショアラ（『ジプシー男爵』）、クラクフ（『乞食学生』）などウィーンの人にとって馴染み深い地名が出てきます。

ヨハン・シュトラウスの代表作の一つ、『ウィーン気質』（Wiener Blut）には Reuß-Greiz-Schleiz といういかにもプロイセンらしき軍隊風の名前の国が出てきますが、これは堅物で融通の効かない北ドイツ人を揶揄した言い回しで、歌詞の中でも人生を楽しむウィーンっ子のしゃれた粋な振る舞いと対照的に描かれています。

このオペレッタの舞台となったウィーン会議は『会議は踊る』という映画にも出てきます。ナポレオン戦争の頃の宮廷外交の様子がよくわかりますが、その後普墺戦争などで覇を競った北ドイツのプロイセンと中東欧の雄ハプスブル



鉄のカーテン（北大西洋条約機構 vs ワルシャワ条約機構）

ク家のオーストリアは結局統一されることなく第一次世界大戦を迎えます。

この戦争はサラエボでのセルビア人によるオーストリア皇太子夫妻暗殺事件をきっかけに始まりました。大戦の結果二重帝国は崩壊し、ハンガリー、チェコスロバキア、ユーゴスラビアなどが独立してオーストリアはドイツ語を話す地域だけの国となります。同時にドイツ帝国、ロシア帝国、オスマン帝国も革命により崩壊し、ポーランド、フィンランド、バルト3国などが独立して、世界地図は大きく変わりました。

### 3 第二次世界大戦後の東西冷戦時代のヨーロッパ

第二次世界大戦後オーストリアが国際社会に復帰したのは1955年。映画『第三の男』にも出てくるようにウィーンは戦後ベルリンと同様、アメリカ、イギリス、フランス、ソ連の4カ国統治を受けましたが、ソ連占領地域と分断されることなく永世中立国として再出発し、すぐに国連にも加盟しました。

戦後共産党の支配下に入ったハンガリーは、これを見てソ連への反抗を試みましたが、1956年にソ連軍の戦車によって鎮圧されました。さ

らに1961年には突如ベルリンの街を分断する壁が作られ、鉄のカーテンを隔ててヨーロッパは自由主義諸国と社会主義諸国との間で厳しく対立しました。

私が西ドイツに留学したのはそんな時です。西ベルリンからチェックポイント・チャーリーを通過して東ベルリンにいた先輩宅を訪問したのですが、検問所や壁に隣接する外交官住宅など強い緊張感に包まれておりました。西側の豊かな生活を誇示する西ベルリンと対照的に、緊張を強いられる東側の生活を垣間見た感じがしましたが、当時は共産党政権の圧倒的な強さに翳りは見えませんでした。

### 4 東西冷戦の終結

1980年代になってポーランドはじめ東側諸国の共産党一党支配が揺らぎ始めました。1989年ハンガリー・オーストリア国境の開放をきっかけにベルリンの壁が崩壊し、1990年にはドイツの再統一が実現しました。

その直後1991年夏に私はウィーンの日本大使館に赴任したのですが、着任してすぐテレビで見たのはモスクワの議事堂を戦車を取り囲む8月クーデターの様子でした。それから数ヶ月



後ロシア、ウクライナ、ベラルーシが独立し、ソビエト連邦という巨大な

勢力が消滅、EU と NATO はその後勢力を拡大し続けました。国民を抑圧してきた強権的な専制主義国家に対する民主主義の勝利となったわけです。

ベルリンではものものしかったブランデンブルク門を囲む塀が嘘のように消え、呆気なく門の下を通れるようになっていました。ソ連の支配下にあったバルト3国が独立し、チェコとスロバキアも別れるなど国境線も大きく変わりました。ただユーゴスラビアについては複雑な民族間対立があって平和裡とはいきませんでした。こういった国際情勢はこの地域に親戚や家族、知人友人の多いウィーンの人にとって他人事ではありません。ウィーンには様々な情報が集まり、これを分析して世界の動向をウォッチするのに絶好の場所でした。結局ユーゴはNATOのセルビア空爆など紆余曲折を経て今日に至っています。

## 5 そして今

今世界のあちこちで戦火が上がっています。戦後国際連合を中心にまがりなりにも保たれてきた国際秩序は自由と民主主義の旗頭であったアメリカの離脱によって今や風前の灯です。

ロシアがウクライナへ武力侵攻した結果、スウェーデンとフィンランドがNATOに加盟したのはロシアの自業自得と言ってもいいでしょうが、欧州勢力圏とロシア勢力圏との境界線は冷戦時代よりずっと東に移動してしまいました。ロシアから見ればもともとソ連の中核にあったベラルーシやウクライナ、ジョージアなどが反ロシア側に回るなどあってはならない事態なのでしょう。一方欧州側から見れば、自由で開かれた公正な民主主義のもとの国民の選択を受け入れるべきだと考えます。

ところがその欧州側の共通価値であるはずの民主主義が怪しくなっています。NATOの結束を乱しているハンガリーやトルコにとどまらず、移民排斥や排他主義、孤立主義を声高に主張し、国際協調に異を唱える極右勢力は、フランス、ドイツ、イタリア、イギリス、オーストリアなど欧州全体に急速に拡大しました。これらの国ではポーランドやジョージア、モルドバと同様、親EUか反EUかのせめぎ合いの様相も呈しています。

ウィーンは長い歴史の中で多様な文化を育み多様性を強みとして国際舞台で活躍してきました。いわば多様性を体現する国際都市といえるでしょう。しかし多様性の価値を正面から否定し、反DE&I (Diversity 多様性・Equality 公平性・Inclusion 包摂性) を唱えるトランプとそのシンパの動きは世界を大きく変えるかもしれない。その意味では今は歴史の転換点かもしれないのです。

ファシズムはワイマール憲法や大正



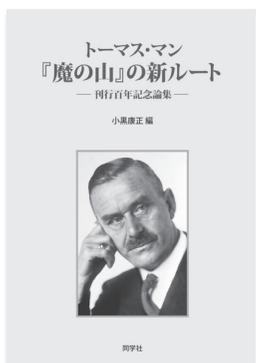
デモクラシーなど民主主義が花開いた時代を経て生まれました。民主主義が戦争を抑止できればいいのですが、権威主義に憧れる乱暴者が幅を効かせ、力の強い者が武力で問題を解決しようとする時代になりつつあるとすれば、人類にとって不幸なことです。

日々の日常はあまり変わらないように見えて実は今、ウィーンにいた時のように、歴史的大事件に立ち会っているのかもしれないと思う今日この頃です。

(たにくちひろふみ 筑紫女学園大学非常勤講師、元在オーストリア日本国大使館一等書記官・参事官)



懇親会では見事なバイオリン演奏を披露してくださいました。



## トーマス・マン 『魔の山』の新ルート —刊行百年記念論集—

小黒 康正 編著 鈴木 啓峻・小野 二葉・坂本 彩希絵・速水 淑子 著  
A5・132頁・本体 1,600円 ISBN 978-4-8102-0345-5

2024年『魔の山』刊行100年を記念し、ベテラン1人と若者4人で記念登頂を企画。従来の研究について考察を深め、100年の彼方を問う。新ルートに挑み続ける。

## それでも書いた女性たち

—ドイツ語圏の作家と思想家—

カタリーナ・ヘルマン 著 木田 綾子 / 野村 優子 / 児玉 麻美 訳  
四六判・360頁・本体 2,200円 ISBN 978-4-8102-0346-2

ドイツで見過ごされてきた女性作家たちの波瀾に満ちた人生を概観する。そこには共通した障害があったのだ。「それでも」書いた彼女たちの苦労を追体験し、「それでも」前進した彼女たちの思いを繋げて欲しい。



同学社

〒112-0005 東京都文京区水道1-10-7  
Tel 03-3816-7011 Fax 03-3816-7044

<https://www.dogakusha.co.jp/>

## 報告:第14回福岡で楽しむEU 2025/2/5 於・西鉄グランドホテル

宮崎 亮

福岡 EU 協会と在福 EU 加盟国友好団体等によるコラボレーションイベント「福岡で楽しむ EU」が開催されました。EU 諸国の選り抜かれたワインやビールと各国の料理、デザート、ヘンデル・コレギウム主宰の飯田大介氏（アジア芸術国際交流委員会代表・福岡 EU 協会会員）らによる EU にちなんだ曲の生演奏、友好団体の活動紹介やプレゼントの抽選会など EU の文化や魅力を感じられるひとときでした。

私たちのブースには、ドイツ大使館から取り寄せた『『ドイツの現状』』、パンフレット「Guten Tag」、当協会の年報47・48号などを準

備しました。

昨年、ドイツ料理のアイスバインとソーセージにからし（Senf）が添えられていないことをホテルのマネージャーに伝えておいたところ、今年はたっぷり準備されていました。隣のブースは毎年日仏協会で、お知り合いも増えてきました。当協会は1956年創立と参加団体の中で一番の古株（日仏協会は1957年）です。来年はもっと多くの協会の参加が望まれます。

2026年は、ぜひ一緒にしましょう！

（みやざきりょう、副会長・医師）



## ベルリンの壁崩壊時に壁の上から独占中継

立花 雅子

2024年12月27日、フジテレビ系列で「激動日本の昭和99年史、私は見た、あの瞬間、あの場面」という内容の長時間ニュース番組が放送されました。その中で午後10時過ぎに、ベルリンの壁崩壊時、TNCから特派員としてドイツに派遣されていた続天（つづきたかし）氏が唯一壁の上に立って実況中継した場面の映像とご自宅でのインタビューが放送されました。



東から西へ壁を通り抜けながら中継放送をする続氏

続氏は西日本日独協会の元会員で、今でも時々メール交換をしています。放送前々日に、その放送の件を私にご連絡頂きました。それで早速、会長の岡嶋先生や副会長の宮崎先生、その他協会の知り合いの方々にもその放送の件をお知らせしました。

私は1987年から88年にかけて協会の事務局員の仕事をしていました。当時は天児民和（あまこたみかず）先生が会長で、事務局は新天町の天神富士ビルの地下室にありました。木村政

資（きむらまさすけ）先生（1994年～2004年協会会長）の内科クリニックの薬局の片隅をお借りしていました。

ドイツ特派員として派遣される少し前に、続氏が新天町の事務局を訪ねていらっしゃいました。「近々ドイツへ特派員として派遣されることになっている。早稲田大学英文科卒で英語は何とかなるだろうが、ドイツ語は全くやったことがないので心配」とのことでした。

私は1974年～75年にかけて、夫のドイツ留学に同伴して西ドイツのゲッティンゲンという大学町に滞在し、ドイツを始めヨーロッパ中いろんなところを旅した経験があります。また Volkshochschule（市民大学）で1年ドイツ語を学び、ホームステイ先のフラウ・カリーベ宅では彼女からほとんど毎日ドイツ語をシャワーのように浴び、日常会話はできるようになっていました。それで、その後何度も事務局にいらした続氏とは、ドイツの話をしたり、ドイツ語の初歩と一緒に勉強したり、テキスト付きドイツ語会話テープをコピーして差し上げたりしました。

続氏の特派員としてのドイツ滞在は1987年から1991年にかけて4年半でした。日本に帰国された後、日独協会の例会で「ベルリンの壁崩壊時の壁の上からの中継放送」について講演をして頂いたこともあります。12月27日の放送ではご自宅の居間でのインタビューもありました。テーブルの上には赤い色彩のついたベルリンの壁の一部である塊が置かれていました。

私自身は、ベルリンの壁崩壊前の1985年に東西ベルリンを、崩壊後2004年には再統一したベルリンを訪れたことがあります。元東ベルリンがどのように変わったかを見たかったからです。崩壊前、壁の西側にはカラフルな絵が延々と描かれていましたが、東ベルリン側から見た壁はただ味気ない灰色のみでした。壁の内側には緩衝地帯が広がっていました。西側の壁の前には、東から西へ壁を乗り越えようとして射殺された人々の慰霊の十字架が並び、花が捧げられ、人々が手を合わせている姿を見ました。

2004年は、統一後14年が経過していました。私は、旧西ベルリンの Zoo (ツォー) 駅から U-Bahn (地下鉄) に乗って東西ベルリンの緩衝地帯にあった Mitte (ミッテ) 地区のポツダム広場へ向かいました。途中電車が地上に出るところがあり、そこは旧東ベルリン地区でした。窓から過ぎゆく景色を見ると、汚いアパートが建ち並び、落書きがあちこちにあり、一帯が荒れていて、統一前の貧しい状態のままに見えた。地下鉄から降りた周辺もいたるところ工事中で、いまだ開発途上という印象でした。

ただポツダム広場だけは開発が進んでいました。独創的なデザインの高層ビルが建ち並び、広場の中心をなすソニーセンターは素晴らしいものでした。ソニーセンターの中心には4000平方メートルのイベント広場があり、未来都市発想でデザインされたガラスとファイバー製の美しいブルーを基調とした大きな屋根で覆われ、あたかも富士山のような偉容を誇っています。広場の中心には噴水があり、それを取り囲んで、たくさんのテーブルと藤椅子が置かれ、多くの人たちがビールなどを飲みながら楽しそうに談笑していました。

その後訪れた「ユダヤ博物館」は、ベルリンの壁が走っていた場所に2001年に建てられたようですが、駅を降りて博物館に行く途中、地

元の人々の姿は殆ど見られず、うらぶれた公園のベンチには失業者らしき中年の男性が数人下を向き、うずくまって座っていました。まるで死んだような界限でした。

ベルリンに来る前訪れた、エルベの真珠と言われる美しいドレスデンの町も、第二次大戦の傷跡が、ドレスデン城や、フラウエン教会にも残っていました。旧東ドイツ全体を見れば、まだまだ復興にはほど遠く、西へ移住せずに残った人々には失業者が多く、心理的に暗い、屈折した不公平感がついついあるのではないかと思います。

ベルリンの壁崩壊から約35年を経たご自宅からのインタビューの中で、続氏は「あの当時、地下組織と連絡をとりながら、いつ東ドイツ体制が崩壊するか気になって夜も眠れなかった。東ドイツ崩壊の予感がして、壁崩壊の3日前に衛星回線をひいてくれるようにフジテレビに依頼し、準備をしていた」とおっしゃっていましたが、さすがジャーナリストだと感心しました。

私の知人で、大阪日独協会の事務局長を長年いらっしゃる和田展子さんにも27日の放送の件をお伝えしたところ、放送後次のようなメールを頂きました。「ベルリンの壁崩壊の2週間ぐらい前にケルンへ出張しておりまして、車のニュースで、東独民がハンガリー、オーストリア経由で西独に流れてきているのを聞いて、『このままだと東独も長くないわね』と私が言ったのですが、その2週間後に壁が崩壊するとは思いませんでした」。

12月27日の放送で、当時まだお若かった続氏が黒い皮ジャンパーとジーパン姿で、先に壁に登っているドイツ人の手を借りて壁によじ登り、壁の上に立ち、マイクを手にして生々しい独占中継をされる姿を見て、当時のドイツ人の熱狂がまざまざと蘇り、思わず興奮し、感動し



ベルリンの壁をよじ登る続氏

ました。続氏はインタビューの中で、「あの時は発作的に壁に登って中継しようと思った」とおっしゃっていました。続氏はまさに歴史的瞬間を現場で体験された記者でした。

放送翌日の12月28日、続氏から「ベルリンの壁崩壊9分バージョン」というYouTube映像が送られてきました。壁崩壊当時、この映像を放映したフジテレビの「ニュース・スーパータイム」を見た人は私も含め、あまりいなかったのではないかと思いますので、そのURLおよびQRコードを記します。

<https://youtu.be/RfuPoHGOhXY?si=-I5cdP-KJ3ZMDc7>

興味のおありの方はご覧下さい。27日の放送より少々長く、ブランデンブルク門周辺のレ



壁の上に立ち中継放送をする続氏

ポートや西ベルリン市長とのインタビューも含まれています。

ベルリンの壁崩壊を期に東西冷戦が終結し、世界は良い方向に向かっていくのではと期待したのですが、今の世界状況を見ると、自国第一主義を掲げるアメリカを始め、多国間主義を否定し、分断が広まる傾向になっています。敵対する国々が目立ち、戦争、紛争は絶えません。国際秩序を主導する国家がない状況で、残念ながら平和にはほど遠く、ますます混迷が深まる世界になっています。

(2025年1月記)

\* 記事中の写真はすべて続氏よりご提供いただきました。

(たちばなまさこ 会員、元年報編集委員)

## 日独対話・交流会

---

宮崎 亮



Anne-Sophie L. König, M.A. Prof. Dr. Gabriele Vogt Stefanie Schwarte, M.A.

2024年11月4日、振替休日の月曜日午後に天神の小さな貸し会議室でオープンな対話集會が開催され、個人参加の機会を得ました。

ミュンヘン大学アジア研究所所長、同日本センター所属 (Department für Asienstudien / Japan-Zentrum, Ludwig-Maximilians-Universität München) の Prof. Dr. Gabriele Vogt と共同研究員の Anne-Sophie König、Stefanie Schwarte の3人が、お見えです。フォークト教授は1995年にミュンヘン大学から九州大学へ留学され、以来度々の来日で各地に多くの友人をお持ちです。

ドイツ研究振興協会 (Deutsche Forschungsgemeinschaft /DFG) による援助を受けた調査・研究のテーマは「デモグラフィーとデモクラシー (Demography and Democracy) 人口高齢化はいかに民主主義に影響をおよぼすのか—日本の事例」です。高齢化により民主主義はどう変化するのか？政治家たちはこの課題にどう対応するのか？若い有権者たちは自分たちの声を届けられているのか？これらは多くの民主主義国家にとって差し迫った重要な課題となっています。世界で最も多くの高齢の有権者

を有する日本の事情に焦点を当てた調査 (フォーカスグループインタビュー) を全国で実施中です。

日本の若者・学生たちは集団の中で政治的な話や自分の立場・立ち位置などを話さないのではないかと思われがちですが、その場所ときっかけさえ与えられれば、話したいことは結構あるようです。仕事の都合で懇親会に参加できなかったのは残念でしたが、新たな視点での気づきの多い交流会でした。

### Prof. Dr. Gabriele Vogt

Professorin für Japanologie, Direktorin des Departments für Asienstudien  
Forschungsschwerpunkte: Demografischer Wandel, Arbeitsmarkt und Zuwanderung, multikulturelles Japan, Politik und Gesellschaft Japans, Lokalpolitik, Okinawa  
Politikfeldanalysen, Mehrebenen-Governance, politische Partizipation, soziale Bewegungen

(みやざきりょう、副会長・医師)

# ドイツ農民戦争500年

宮崎 亮

今から50年前、1973-1975年、私はドイツ北部のハルツ（Harz）地方のヴェルニゲローデ（Wernigerode）でドイツ語を学んでいました。近くには魔女伝説で有名なブロッケン（Brocken）山<sup>1)</sup>があります。

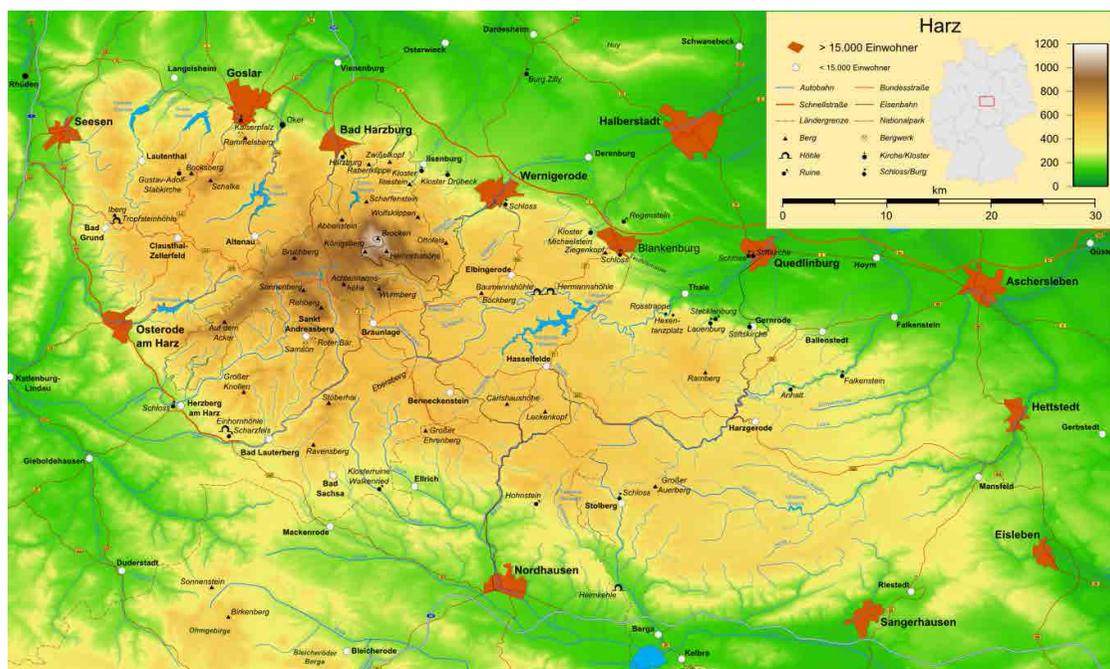
当時ブロッケン山はNATOとワルシャワ条約機構が対峙していた東西ドイツ国境のすぐ東側であり、軍関係者以外の立ち入りは制限されていました。私が山頂に立つことができたのは東西ベルリンの壁がひらかれた（1989年）翌1990年です。ヴェルニゲローデから南南東30kmほどのところにシュトルベルク（Stolberg）という小さな町があります。現在の

人口は1,400人程度ですが、1000年ごろにはすでに鉱山労働者の町（集落）が形成されていました。

1489年ごろ、この町でトマス・ミュンツァー（Thomas Müntzer）<sup>2)</sup>が生まれます。

『もういちど読む山川世界史』にはドイツ農民戦争の引き金になるマルティン・ルター（Martin Luther 1483-1546）<sup>3)</sup>と宗教改革については以下のように記されています。

このころ多くの諸侯領に分裂していたドイツは、教皇庁による財政的搾取の対象となっており、各層にローマ教皇への不満が鬱積して



<sup>1)</sup> ブロッケン山は、ドイツのハルツ山地の最高峰で標高は1,141m。年に一度魔女が集まって（ヴァルプルギスの夜・Walpurgisnacht）魔女の饗宴をする山と言われ、ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテの戯曲『ファウスト』にも登場する。登山者の影が霧に投影されてできる視覚効果であるブロッケン現象が起りやすいことで有名。



シュトルベルクの中心地 左の建物は市役所



シュトルベルクの市役所は「歴史的市役所」に選ばれている。(中央の10ペニヒ切手)

2) トマス・ミュンツァーはドイツ民主共和国（東ドイツ）の5マルク紙幣に描かれていた。



いた。そこで1517年の秋、神学教授ルターが「95か条の論題」で、教皇レオ10世の売り出した贖宥状（免罪符）を攻撃すると、その反響はたちまち全ドイツに広がり、各地に宗教改革の運動をひきおこした。ときの皇帝カール5世（位1519～56）は、ルターを1521年ヴォルムス帝国議会に喚問し、異端的な説の取消しをせまったがはたさず、多くの諸侯や自由都市がルターの精神にそって教義の改革・修道院の廃止などの変革を進めていくのを防止できなかった。もとよりバイエルン・オーストリアなどカトリックにとどまる諸侯もあり、両派の対立は一時、武力抗争（シュマルカルデン戦争、1546～47年）にまで発展したが、結局1555年アウクスブルクの和議で、ルター派諸侯とカトリック諸侯の同権が認められた。

この間、1524～25年には、ドイツでルターの改革運動に鼓舞された農民が、ミュンツァーらの指導下にドイツ農民戦争と呼ばれる大反乱を起こしたが、諸侯により鎮圧された。これ以後、ルター派の教会形成は諸侯の

主導下にすすめられていく傾向が強まった。  
 (『もう一度読む山川世界史』 2009年 山川出版社 p.124)

2025年4月21日にフランシスコ教皇が逝去され、5月8日、新ローマ教皇・レオ14世の即位ミサが、バチカンのサン・ピエトロ広場で行われました。この間何度もテレビの報道でサン・ピエトロ寺院やミケランジェロによる「システーナ礼拝堂天井画」と祭壇壁画「最後の審判」を見る機会がありました。サン・ピエトロ大聖堂の建設は、教皇ユリウス2世の委嘱を受けたブラマンテが最初に設計し、その後、ミケランジェロが引き継ぎます。ユリウス2世の後を1513年に引き継いだメディチ家出身の教皇レオ10世は、ローマのサン・ピエトロ大聖堂の新築資金を調達するために、「教会のために喜捨などの善行を積み、その功績によって過去におかした罪も赦される」と説明して、贖宥状を売り出していました。このころ多くの諸侯領に分裂していたドイツは、教皇庁による政治的干渉や財政的搾取を受けやすく「ローマの牝

3) マルティン・ルター 生誕500年の1983年に東ドイツで発行された記念切手。「95か条の論題」を発表し宗教改革の発端となる10月31日は、住民の多くがルター派の州では「宗教改革記念日」として休日だそうです。「10月31日はハロウィンだ」と言っているのは誰ですか？





ミュンツァー生誕500年記念切手 1989年



農民戦争画 騎士を取り囲む農民

牛」といわれていました。

ルターがヴィッテンベルク大学で宗教改革の発端となる1517年10月31日に「95か条の論題(95 Thesen)」を発表したのが33歳でその時ミュンツァーは27歳でした。翌1518年、ルターはアウグスブルクの審問にかけられ、1519年のライプチヒ討論では、ルターの数少ない賛同者の一人が神学者ミュンツァーでした。1520年、30歳のミュンツァーはルターの推薦を得てツヴィッカウの説教者の職を得ています。

皇帝カール5世(位1519~56)は、ルターを1521年ヴォルムス帝国議会に喚問し、異端として破門します。ルターはザクセン選帝侯の元に逃げ込み、ヴァルトブルク城にかくまわれ、そこでエラスムスのギリシア語テキストをもとに新約聖書のドイツ語訳をおこないます。

ルターは「神の前に万人は平等」とのべます。その教えにこたえる南ドイツのシュヴァーベン地方の修道院の農民たちが、1524年賦役・貢納の軽減、十分の一税、農奴制の廃止など、今から見るととても控えめな「12か条の要求」をかかげてドイツ農民戦争の始まりとなる行動に出ます。ミュンツァーの指導により戦いは中部へ拡大し、鉱山の坑夫も巻き込んだ農民団が各地に組織されます。当初ルターは農民側を支持していましたが、そもそも、教会の在り方を批判しただけで領主の農奴支配(領主と農奴の関係)などには興味もなかったようです。当初各

地で優勢な農民軍でしたが、やがて、殺人・放火・略奪・破壊に及ぶとルターは領主に「農奴の反乱を鎮圧せよ」と呼びかけます。「人は狂犬を撲殺しなければならないのと同じように、たれでもそれをなすう人は、彼らをひそかにでも公然とでもいいからたたきつぶし、絞め殺し、刺し殺すべきだ」「もし汝がそのために死ぬば、汝は祝福されている。これ以上の幸福な死は汝に与えられることはない。」(ルター『農民の殺人・強盗団に抗して』)。ルターの信奉者でありその改革精神に鼓舞された市民や農民とのあいだに距離を置くルターの姿勢、ことにミュンツァーに主導されたチューリンゲン農民団を弾圧するよう諸侯に勧告したことは「ルターの裏切り」とも呼ばれます。

翌年1525年になると、諸侯軍は体制を立て直して反撃に転じます。1525年2月末~3月初め頃ミュンツァーは彼の影響下にあった自由帝国直轄都市ミュールハウゼン(Mühlhausen)に向かい、市会の権力を握ります。ヘッセン方伯フィリップは、5月3日フラウエンベルクでフルダ(Fulda)農民団を撃破します。ミュンツァーは5月16日ミュールハウゼンに近いフランケンハウゼン(Bad Frankenhausen)の戦場山(Schlachtberg)と今日でも呼ばれる山に車陣をつくって立てこもります。その後、ヘッセン方伯フィリップはザクセン公の軍隊もあわせてフランケンハウゼンに向かいます。ミュン



マルティン・ルターと妻カタリーナ  
(ルーカス・クラナッハ画:1529年 フィレンツェ・ウフィツィ美術館蔵)  
ルーカス・クラナッハ (Lucas Cranach der Ältere, 1472-1553) ヴィッテンベルクに工房を構え、フリードリヒ3世に御用絵師として仕えた。

ツァーは宗教的指導者ではありませんでしたが、軍事的知識を持っていたわけではなく、寄せ集めの農民軍と、諸侯の軍隊とでは力の差は明らかでした。前代未聞の大虐殺が行われ8000の農民のうち、5000が惨殺され、5月25日にはミュールハウゼンは降伏します。

1525年5月27日、ミュンツァーは諸侯の前で拷問にかけられたうえ、斬首され、ほかの多くの都市や村でも捕らえられた農民らの大虐殺が行われました。四肢の切断やほかのより寛大な(?) 処分、掠奪や焼討などについては枚挙のいとまがありません。自由都市であったミュールハウゼンは自由権を放棄しなければならないことになり、ザクセンの領土に併合されます。

いかに強靱な精神を持ったルターでも、多くの血が流された状況のなかで、冷静ではいられなかったでしょう。41歳のルターは翌月、1525年6月13日結婚します。ルターの妻となったのは26歳の元修道女、カタリーナ・フォン・ボラ (Katharina von Bora, 1499-1552) です。カトリック教会によって聖職者の結婚が禁止されていた時代に元修道女と聖職者が結婚したことは批難の嵐を起こしたに違いありません。二人

はアウグスチノ修道院の建物に住み、6人の子供をもうけます。

30代後半から頑固な便秘に悩まされ、痔核や脱肛を起こすまでになっていたルターは結婚後、カタリーナの手料理を喜んで食べたそうで体重が増えます。彼の家にはビールの醸造販売権があり、自家醸造のビールはお気に入りでした。「私がここに座って、うまいヴィッテンベルクのビールを飲む、するとひとりでに神の国がやってくる。」「酒と女と歌を愛さない者は、一生馬鹿のまま」などルターの言葉が残っています。

肖像画からも肥満体であった様子が見られます。体重は100~120kg あったようで、メタボリックシンドロームは間違いなさそうです。またその後も、尿管結石や狭心症、幾度の心臓発作、めまい、下肢の潰瘍、痛風、尿閉に苦しめられ、冠動脈硬化症による心筋梗塞が直接の死因となりました。ルターは終生ヴィッテンベルク大学における聖書講義を続けました。宗教史と思想史、さらには文化史に大きな足跡を残したマルティン・ルターは、1546年2月18日に生まれ故郷のアイスレーベンでこの世を去り、同年2月22日にヴィッテンベルク城教会内に



アイスレーベン マルクト広場 中央にルターの像  
ルターの生地・没地であるアイスレーベンや、彼が長年神学教授を務め、「95か条の論題」を発表して宗教改革の口火を切ったヴィッテンベルクの町には、いまでもルターに関わる建物が数多く残っている。アイスレーベンのルターの生家やルター晩年の家、ヴィッテンベルクのルター・ホール（ルター住居）、ルターが説教を行っていた町の教会、そして「95か条の論題」が貼られた城付属聖堂は、ルター記念建造物群として、1996年に世界遺産に、2015年には著述作品などが記憶遺産に登録された。

埋葬されました。

夫の死後、カタリーナは、ペストの流行から逃れるためにトルガウへと馬車で向かっている途中で事故に遭い、骨盤を骨折し、それが元で1552年12月20日にトルガウで死去します。

### 参考文献

『世界の歴史』編集委員会『もういちど読む山川世界史』、山川出版社、2009年。

小泉徹『世界史リブレット27 宗教改革とその時代』、山川出版社、1996年。

デュラント『世界の歴史』、日本ブックスクラブ、1969年。

エンゲルス（大内力訳）『ドイツ農民戦争』、岩波書店、1950年。

滝上正「マルチン・ルターの病歴」、日本医史学雑誌・第57巻第4号（2011）、433-449。

金山正道「宗教改革運動と陰の立役者カタリーナ・ルター」、西日本日独協会年報第42号、2018年。

そのほか、記載した人名、場所や事柄に関してはドイツ語の WIKIPEDIA や都市のホームページなどで可能な限り調べましたが、裏はとれていません。正確さに欠ける点はご容赦ください。もし当時、留学時代に少し歴史への興味と時間的余裕があったら、ルターやミュンツァーの足跡をたどることもできただろうと後悔しています。ミュンツァーはキリスト者なので、命日の概念はないでしょうが、今年5月27日（斬首から500年）は、個人的にミュンツァーと農民らを偲んで一献傾けました。

（みやざきりょう、副会長・医師）

## ドイツ語こぼれ話①

### 「ドイツ語合宿のエピソード」～近況報告を兼ねて

---

高柳 英子

昔の東京ゲート・インスティトゥートの合宿のエピソードです。その間、すべてドイツ語でしゃべり、日本語を発した人は、罰金1000円支払う。最後に集まったその金で飲もうという企画。ところが誰一人、日本語をしゃべる人はいません。あまり会話のできない人は、「ヤー」と「ナイン」、「ピッテ」と「ダンケ」だけで2日間をやり通し、コミュニケーションにはそれしかないことをみごとに証明して、皆から称賛されました。

ところが夜のキャンプ・ファイアーで、火の粉がはねて、ドイツ語ペラペラの優秀な学生の手に当たり、彼は思わず「アチッ！」と叫びました。これは「熱い」という日本語であり、痛いときの「アイタ！」というのも「あ、痛い」という日本語。そういう場合、ドイツ語では「アウチ！」と言わねばならない、という判決になり、結局罰金は、その1000円しか集まらなかった由。

私はこのエピソードを聞いて以来、ドイツでは痛い目に遭った時、とっさに「アイ…」とならないように、気をつけていました。目下、手術で入院中で、先生からお腹を押されて「ここ、痛いですか？」と問われ、「アウ～」 「アオ～」とうめいております。

(蛇足) ドイツ語の U「ウ」は、日本語よりも口が尖って丸まりますから、ドイツ語で「アウチ！」という時は、ウとオの間くらいの音を出してね…と、昔のドイツ語教師時代の癖で、付け足しておきます。

(たかやなぎ えいこ 会員、児童文学翻訳家)



## ドイツ語こぼれ話② 「考えは自由」

高柳 英子

ドイツ民謡に Die Gedanken sind frei ディー・ゲダンケン・ズイント・フライ（考えることは自由だ）という歌がある。歌詞の載ったビラが最初に登場したのはまだフランス革命前の1780年。その30年後にメロディーがつけられ、現在のドイツ国歌の詩を書いたことで有名なホフマン・フォン・ファラーズレーベンが民謡として採録し、その後も様々な歌詞バージョンが生まれた。日本でいまだに歌われているわらべ歌などは、大正時代の作が多いから、それに比べると江戸中期に作られたこの歌はずいぶんと古い。それでもドイツでは廃れていない。ドイツ人なら誰でも知っていて、一度ならず歌ったことがある曲だろう。音楽的才能がからきしないので、うまく音符に乗っからないのだが、1番と、2番の歌詞を意識してみると、だいたい以下ようになる。

- 1) 考える自由を 僕らは持つてる  
頭の中を 流れる雲だ  
誰にも見えず 鉄砲もあたらず  
思いは消えず 考えは自由
- 2) 暗い牢屋に 閉じ込められても  
かまいはしない 僕の思いは  
飛んで行くのさ 壁をこわして  
塀を乗り越え 空のかなたに

3番以降の歌詞の中で「僕があの子に恋い焦がれていても、その思いは誰にもわかりはしない」とあるから、密かな恋心を歌った愛の歌だと表向きには主張できる。人妻に対する恋慕や同性愛なら、時代が時代なら犯罪として逮捕さ

れることもありえたわけだ。けれど「あの子」を何の比喩ととらえるかで、この歌詞はいかようにも解釈できる。そこで皆と合唱する時は1、2番だけが歌われるのが通例で、それぞれ「憲法9条」でも「安い米ほしい」でも、各人が勝手に考えるのは自由なのだ。だからこの歌は民衆が時の政権から抑圧されたと感じた時には、いつも不死鳥のごとく蘇り、思想、信条、表現の自由を訴えた政治的なプロテスト・ソングとして、ドイツ人に愛唱されて今日に至っている。

ナチス時代、「白バラ」抵抗運動のゾフィー・ショルは1942年に父親が逮捕された時、その獄の塀の外で、この曲をフルートで奏してやったという。父親は、「ヒトラーが戦争をやめない場合、2年後にロシア軍がベルリンに侵攻するだろう」と同僚に語ったためにゲシュタポに逮捕され、禁固4か月の判決を受けたのだ。ゾフィー自身はその翌年、ミュンヘン大学校内で反戦のチラシを一度撒いただけで、あっけなく処刑された。

また戦後1948年、ソ連が西ベルリンへの鉄道と道路、水路を全て封鎖した「ベルリン封鎖」の折、西ベルリン市長エルンスト・ロイターが30万のベルリン市民を前に全世界に向けて演説し、「全世界の皆さん、どうかこの街を見てください。西ベルリンを見捨てないでください」と訴えた時、群衆の間から自然発生的にこの歌がわきおこって大合唱になったという。アメリカは大規模な約1年間もの空輸作戦でこの危機

を乗り越えたが、ベルリン封鎖は、やがてベルリンの壁建設へと繋がっていったのだ。1990年の東西ドイツ再統一の時まで、東ベルリンの人々は、西ベルリンを取り囲む壁をみながら、この民謡を心密かに歌い継いでいったのだろうか。

「菩提樹」や「ローレライ」や「さすらいは粉屋の喜び」などと並ぶドイツ民謡なのに、日本にはあまり知られていないなど、昔からいつも残念に思っていた。でもこれが愛唱歌となる時代は、不幸な時代なのだ。日本人がこれまでこの歌を知らずに過ごせたのは、ある意味、幸せだったのかもしれない。

それにしても今やAIが何でも出来て、デジタル・アート作家が活躍し、俳句や短歌も人を感じさせる作品が作れる時代だという。けれども人工知能はこうした比喩、隠喩をはたしてどこまで理解できるようになるのだろうか。仮に今、イスラエル軍のユダヤ人兵士がガザのパレ

スチナ人に向かって発砲しながら、心密かにこの歌を口ずさんでいる、という設定の文章があったとしたら、自動翻訳機はその兵士の断腸の思いを、ちゃんと理解して訳してくれるだろうか。

本歌取りの和歌を読みながらニンマリしたり、仲間内だけに知られたエピソードを元に、それをあてこすったり、皮肉ったりして楽しむ楽屋落ちが、AIに理解できるだろうか。その言葉が真に意味することを、人間の脳細胞の中を、人工知能が理解するのは、いかに技術が進歩しても決してできない。考える自由をAIは持っていないのだ。だからこそ、人間だけが持っている能力を謳歌するこのドイツ民謡は、世界に広められ、人類が減びるまで、これからも営々と歌い継がれていく価値があると思う。

(蛇足) 曲をお聴きになりたい方はドイツ語の原題Die Gedanken sind freiで、ネットの動画を検索してください。

## 西日本日独協会ドイツ語教室ご案内

和やかな雰囲気、身につくドイツ語！  
非会員の方にもぜひお勧めください。

レベル (CEFR: 欧州共通参照枠)  
に合わせた7クラスを開講

### ネイティブ講師担当

- ・ A 1 (入門)
- ・ A 2 (基礎)
- ・ B 1 (初級)
- ・ B 2 (中級)
- ・ C 1 (上級)

### 日本人講師担当

- ・ 初歩
- ・ 基礎総合



受講料 (別途教科書代がかかります)

春・秋学期開講

会員・学生20,000円、一般23,000円

半学期のみの受講

会員・学生10,000円、一般11,500円



各クラスの曜日と時間は  
ウェブサイトでご確認ください  
<https://jdg-nishinihon.org/?q=node/7>



白水 健太

福岡市出身の白水健太（しろうずけんた）です。

東京外国語大学のインドネシア・マレーシア語学科卒業で専攻はマレーシア語でした。高校生のときに英語を習っていた塾の外国人講師がオランダ系アメリカ人であったためオランダ語を大学で学びたいと思い、その準備として第二外国語にドイツ語を選択しました。

インド・ヨーロッパ語族の言語全般に興味があるのですが、オランダ語は殆ど身につけませんでした。ドイツ語もあまりできませんが、宜しくお願いします。

（しろうずけんた）

堀 義行

初めまして。堀義行と申します。1951年生まれです。ドイツ語は50年前に学習して以来、使う機会が無く錆びついていました。ここに来まして、ドイツ語圏に文通や訪問し合える友人が居たら楽しいだろうと、再学習を思い立ち入会させていただきました。語学だけでなく、文化や思想に触れる機会も得たいと思います。いきなり厚かましいお願いで済みませんが、何方か南独、オーストリア在住のペンパルをご紹介頂ければ幸いです。宜しくお願いします。

（ほりよしゆき）

## ◆新入会員自己紹介

吉田 寛美

京都で生まれ、小学校低学年まで育ちました。その後、父の仕事の関係で大阪府高槻市へ転居し、結婚まで居住しておりました。大学卒業後、西武化学工業（株）に就職しましたが、ご縁があり、1年程で結婚しました。

主人の実家、長崎市南島原市で結婚生活をはじめました。そして長い年月、この地で歯科医師として仕事、家庭生活を過ごしてまいりました。

主人が高齢のため閉院し、また私も病気が2～3有り通院しておりました。その時、福岡のご縁を頂き、転居する事となりました。早いものでもう3年に成ります。家族は3人ですが、福岡では2人暮らしです。

主人 吉田秀隆 歯科医師 大阪歯科大学

私 吉田寛美 主婦 関西外国語大学

娘 吉田彩乃 医師 東京女子医科大学

（よしだひろみ）

## ● 事務局報告

### I. 2024年度会員動向

- (1) 2024 年度入会個人会員 4 名
- (2) 2024 年度退会個人会員 4 名
- (3) 2024 年度末在籍会員
  - 名誉会員：5 名
  - 法人会員：3 法人
  - 個人会員：105 名（一般 80 名、家族 3 名、青年 11 名、学生 5 名、法人指名 6 名）

### II. 2024年度活動報告

#### 1. 諸会議

- (1) 2024 年度定期総会
  - 2024 年度定期総会 2024 年 5 月 25 日（土）15：00～16：15
  - 場所：福岡市国際会館第 1 会議室
- (2) 理事会
  - 第 1 回理事会 2025 年 3 月 29 日（パピヨン 24 第 14 会議室）

#### 2. 2024年度例会等の諸行事報告

- (1) 2024 年 5 月例会（24 年度総会後）
  - 日時：2024 年 5 月 25 日（土）
  - 卓話：「トーマス・マン『魔の山』100 年 NHK「100 分 de 名著」出演記
  - 講師：小黒 康正（おぐろ やすまさ）氏
  - 会場：福岡市国際会館第 1 会議室 27 名参加
  - そのあと有志が天神の BAKU で食事をした。
- (2) 福岡国際関係団体連絡会（FUKU-NET） FUKU-NET パネル展（福岡市役所）
  - 日時：2024 年 7 月 30 日（火）から 8 月 5 日（月）
  - チラシのみで参加（年報 15 部、入会申込書 10 部を送付）
- (3) 2024 年 10 月例会
  - 日時：2024 年 10 月 26 日（土） 15:00～16:30
  - ZOOM によるオンラインセミナー：「日本の唱歌とドイツ民謡の不思議な関係」
  - 講師：佐藤 慶治（さとう けいじ）氏
  - オンラインセミナー 約 10 名参加
- (4) ドイツ語圏からの留学生と共に祝う楽しいクリスマス
  - 日時：2024 年 12 月 17 日（火）
  - 会場：西部ガス パピヨン 24

立食ビュッフェ ドイツ人は9名参加 全体で43名参加

(5) 第14回 福岡で楽しむ EU

日時：2025年2月5日（水）18：30～20：30

場所：西鉄グランドホテル2階「プレジール」

本協会から10名参加

(6) 2025年3月例会

ヨーロッパ各地で進められている「つまずきの石」運動

日時：2025年3月29日（土）

講師：栗山 次郎（くりやま じろう）氏

会場：西部ガス パピヨン24 26名参加

### 3. 委員会活動

(1) 年報48号発行 2024年10月2日

(2) ドイツ語教室

春期：受講者 26名

秋期：受講者 21名

### 4. 後援・共催

(1) 第7回 九州ドイツ語スピーチコンテスト2024年（7. Deutschsprachiger Redewettbewerb in Kyushu 2024）【後援】

11月23日に開催する予定だったが、参加希望者が僅少だったので実施できなかった。2025年は7月5日に実施する予定。

(2) カンタータプロジェクト2024～ポリフォニーの道標（みちゆき）【後援】

日時：2024年11月25日（月）19：00開演

会場：あいれふホール

(3) 福岡で楽しむ EU の会 【共催】

日時：2025年2月5日（水）18：30～20：30

会場：西鉄グランドホテル2階「プレジール」

当協会からの参加者：10名

### 5. 協力

特になし

### 6. その他

特になし

### Ⅲ. 2024年度協会収支決算報告、留学生基金収支決算報告および会計監査報告 — 2024年4月1日～2025年3月31日 —

#### 1. 2024年度協会会計収支決算

##### (1) 【収入】（金額単位：円）

費目	項目	予算	決算	予算比
前年度繰越金		752,298	752,298	0
運営費	個人会員	511,000	528,000	17,000
	法人会員	100,000	220,000	120,000
	年報広告費	100,000	135,000	35,000
	寄付	0	0	0
	雑収入	30	610	580
	運営費計	711,030	883,610	172,580
活動費	例会等行事	1,000,000	276,000	-724,000
事業費 (ドイツ語教室)	今期前受金	393,000	393,000	0
	春期受講料	200,000	160,280	-39,720
	秋期受講料	500,000	462,000	-38,000
	次年度前受金	350,000	456,000	106,000
	事業費計	1,443,000	1,471,280	28,280
	合計	3,906,328	3,383,188	-523,140

##### (2) 【支出】

費目	項目	予算	決算	予算比
運営費	事務所家賃	240,000	240,000	0
	光熱・水道費	60,000	54,577	-5,423
	電話代	90,000	80,719	-9,281
	インターネット	10,000	12,408	2,408
	人件費	300,000	240,000	-60,000
	事務経費	20,000	26,745	6,745
	通信・印刷費	70,000	19,936	-50,064
	会議費	0	0	0
	渉外費	30,000	41,344	11,344
	旅費交通費	30,000	0	-30,000
	ユース活動支援	0	0	0
	年報発行費	150,000	162,000	12,000
	雑費	10,000	4,094	-5,906
	予備費	50,000	0	-50,000
	運営費計	1,060,000	881,823	-178,177
活動費	例会等行事	1,000,000	276,000	-724,000
事業費 (ドイツ語教室)	春期教室経費	500,000	524,640	24,640
	秋期教室経費	500,000	491,110	-8,890
	事業費計	1,000,000	1,015,750	15,750
	合計	3,060,000	2,173,573	-886,427

##### 【決算（総括）】（単位：円）

	収入	支出	差額
繰越金	752,298	0	752,298
運営費	883,610	881,823	1,787
活動費	276,000	276,000	0
事業費	1,471,280	1,015,750	455,530
合計	3,383,188	2,173,573	1,209,615

繰越金 1,209,615

注：この繰越金の中には、ドイツ語教室の次年度春期受講料前受金(456,000円)が含まれる。

2. 2024年度 留学生基金 収支 — 2024年4月1日～2025年3月31日 —

前年度繰越金	258,630 円
クリスマス会支出	32,000 円
クリスマス会募金	30,250 円
2025 年度繰越金	256,880 円

2024年度西日本日独協会会計および留学生基金監査報告書

西日本日独協会  
会長 岡嶋 泰一郎 殿

2024年度（2024年4月1日～2025年3月31日）の西日本日独協会会計および留学生基金について、諸帳簿、収支決算書、預金通帳および関係資料に基づき監査した結果、その内容が適正かつ経理事務が正確であることを報告します。

2025年3月26日

監事 藤野 成爾 印

監事 富重 純子 印

## IV. 2025年度活動計画

### 1. 諸会議

- (1) 総会 2024年度定期総会 2025年5月17日(土)
- (2) 理事会 必要時に随時招集 協会事務所または例会会場にて

### 2. 例会等の行事

- ・例会を2～3か月に1度企画。卓話、懇親会等。
- ・キリンビール工場ないし福岡市内：ビール祭り（できれば秋口に実施）
- ・ドイツ風クリスマス会（12月）

### 3. 委員会活動および事務局

- (1) 年報編集 2025年9月ごろ 年報第49号発行の予定
- (2) ドイツ語教室

講師：見島裕哲、本田和親（協会事務所）、シュトロートホフ・マーティン（オンライン授業）  
（予定：受講者の動向によってクラスの閉講もありうる）

2025年度春期 2025年4月～2024年7月

2025年度秋期 2025年10月～2025年1月

### 4. 共催・後援・支援

#### (1) 後援・共催

- ・カンタータプロジェクト2025（会員の小沼和夫氏が企画・指揮）があれば例年通り後援
- ・ドイツ語スピーチコンテスト（会員のホルスト先生、ゴツィック先生たちが主催）2025年7月5日開催予定
- ・「福岡で楽しむEUの会」があれば例年通り共催

## V. 2025年度協会会計収支予算

— 2025年4月1日～2026年3月31日 —

### 1. 【収入】（金額単位：円）

費目	項目	前年度		2025年度	
		予算	決算	予算	前年予算比
前年度繰越金		752,298	752,298	753,615	1,317
運営費	個人会員	511,000	528,000	528,000	17,000
	法人会員	100,000	220,000	100,000	0
	年報広告費	100,000	135,000	100,000	0
	寄付	0	0	0	0
	雑収入	30	610	30	0
	運営費計	711,030	883,610	728,030	17,000
活動費	例会等行事	1,000,000	276,000	1,000,000	0

事業費 (ドイツ語教室)	今期前受金	393,000	393,000	456,000	63,000
	春期受講料	200,000	160,280	200,000	0
	秋期受講料	500,000	462,000	500,000	0
	次年度前受金	350,000	456,000	300,000	-50,000
	事業費計	1,443,000	1,471,280	1,456,000	13,000
合 計		3,906,328	3,383,188	3,937,645	31,317

\* 前年度繰越金はドイツ語教室の前受金を差し引いて計上しております。

## 2. 【支出】（金額単位：円）

費 目	項 目	前年度		2025年度	
		予 算	決 算	予 算	前年予算比
運営費	事務所家賃	240,000	240,000	240,000	0
	光熱・水道費	60,000	54,577	60,000	0
	電話代	90,000	80,719	90,000	0
	インターネット	10,000	12,408	12,000	0
	人件費	300,000	240,000	300,000	2,000
	事務経費	20,000	26,745	20,000	0
	通信・印刷費	70,000	19,936	70,000	0
	会議費	0	0	0	0
	渉外費	30,000	41,344	30,000	0
	旅費交通費	30,000	0	30,000	0
	年報発行費	150,000	162,000	150,000	0
	雑費	10,000	4,094	10,000	0
	予備費	50,000	0	50,000	0
	運営費計	1,060,000	881,823	1,062,000	2,000
活動費	例会等行事	1,000,000	276,000	1,000,000	0
事業費 (ドイツ語教室)	春期教室経費	500,000	524,640	500,000	0
	秋期教室経費	500,000	491,110	500,000	0
	事業費計	1,000,000	1,015,750	1,000,000	0
合 計		3,060,000	2,173,573	3,062,000	2,000

## 【予算（総括）】（単位：円）

	収 入	支 出	差 額
繰越金	753,615	0	753,615
運営費	728,030	1,062,000	-333,970
活動費	1,000,000	1,000,000	0
事業費	1,456,000	1,000,000	456,000
合 計	3,937,645	3,062,000	875,645

繰越金875,645

注：この繰越金予想の中には、ドイツ語教室の次年度春期受講料前受(予想)金(300,000円)が含まれる。

## ● 2025年度役員等名簿

(敬称略、50音順)

### 1. 名誉職

名誉会長 酒見俊夫 在福岡ドイツ連邦共和国名誉領事 西部ガス(株) 会長  
顧問 池田紘一 九州大学名誉教授

### 2. 役員

会長 岡嶋泰一郎 国立病院機構 小倉医療センター名誉院長、社会保険仲原病院顧問  
副会長 小黒康正 九州大学大学院人文科学研究院教授  
宮崎亮 公益社団法人 福岡医療団 千鳥橋病院医師  
事務局長 福元圭太 九州大学言語文化研究院教授  
理事 荒木啓子、加藤元也、ゴツィック・マーレン、堺雅志、  
佐田正之、田口武史、藤真理、中村直樹、船津邦比古、  
ホルスト・スウェン、御手洗淳  
監事 藤野成爾、富重純子

### 3. 委員会 (委員長○印、および委員)

企画委員会 ○宮崎亮、荒木啓子、岡嶋美佐子、加藤元也、村上康子、山崎勝幸  
年報編集委員会 ○田口武史、富重純子、藤真理、中村直樹、池田奈央  
ドイツ語教室委員会 ○堺雅志、児島裕哲、シュトロートホフ・マーティン、平松智久、  
本田和親

### 4. 事務局

福元圭太 (事務局長)、中村直樹 (Web-master)、池上芳子 (事務局員)

同人誌・会報・機関誌、  
小説集、歌集、句集、自分史などの  
自費出版物を編集発行します。

**花書院**  
図書出版

〒810-0012 福岡市中央区白金2丁目9番2号  
TEL.092-526-0287 FAX.092-524-4411

城島印刷株式会社 〒810-0012 福岡市中央区白金2丁目9番6号  
TEL.092-531-7102 FAX.092-524-4411

言花

もはや、「言葉」では満足できない。

小さくても雄々しく咲いているものを。  
実をなす季節を窺っているものを。  
一握みの文章。一握りの作家。  
毒があってもいい。甘い蜜ならなおのこと。  
言花をもつ本が、一冊でも多く集めよう。  
人々に、色と薫りを運ぶよう。

●

いま、ここに種を蒔く。

## ● 西日本日独協会会則

### 〈名称及び事務局〉

第1条 本会は、西日本日独協会と称する。

第2条 本会の事務局を福岡市に置く。

### 〈目 的〉

第3条 本会は日独両国間の学術・経済・文化面の交流を助長し、あわせて両国民の親善を図ることを目的とする。

### 〈事 業〉

第4条 本会の目的を達成するために、次の事業を行う。

1. 例会の開催（ドイツあるいは日独交流の紹介、会員の親睦など）
2. ドイツ語教室の運営
3. 両国学生交流の支援
4. 年報の発行
5. 目的に沿う催事の主催・共催・後援

### 〈会 員〉

第5条 本会の会員は名誉会員、法人会員、個人会員、青年（40歳未満）会員、家族会員、学生会員とする。

1. 名誉会員、法人会員は理事会の同意を得て会長が決定する。
2. 個人会員、青年会員、家族会員、学生会員は会員の推薦により理事会で確認する。
3. 法人会員に所属する者2名以下を個人会員（会費無料）登録することができる。

### 〈役員および顧問〉

第6条 本会に次の役員・名誉会長・顧問をおく。

1. 会長1名、副会長3名以内、事務局長1名、理事若干名、監事2名
2. 役員は理事会で推薦し、総会の承認を得る。任期は2年、再任可とする。
3. 会長、副会長、事務局長は理事の互選とする。
4. 理事会の推薦により、会長は名誉会長、顧問を委嘱することができる。

### 〈委 員 会〉

第7条 本会は下記の委員会ほか、必要に応じて委員会を設け、委員長を理事の中から選ぶ。

1. 企画委員会、ドイツ語教室委員会、年報編集委員会、日独ユース委員会
2. 委員長は、理事及び会員の中から委員を選ぶことができる。

### 〈会 議〉

第8条 本会の会議は、総会、理事会とする。議事は出席者の過半数をもって決定する。

1. 総会は年1回以上会長が招集する。総会に付議する事項は以下の通り。  
①活動計画、報告 ②予算、決算 ③役員承認 ④会則変更 ⑤他重要事項
2. 理事会は会長が必要に応じて招集し議長となる。付議事項は以下の通り。  
①活動状況 ②財務状況 ③総会付議事項 ④役員の推薦 ⑤他重要事項

### 〈会 計〉

第9条

1. 本会の会計は、会費、事業（ドイツ語教室）などの収入をもって充てる。
2. 年会費は法人会員1口20,000円以上任意、個人会員6,000円、青年会員4,000円、家族会員3,000円、学生会員1,000円とする。
3. 会費を2年間滞納した場合は退会と見なす。
4. 会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとし、期末には監事の監査を受ける。
5. 事務局スタッフを有給とすることができる。

### 〈付 則〉

第10条

1. 本会則上の疑義が生じた場合は、理事会で対応し、事後、総会で承認を得る。
  2. この会則は2019年4月21日から発効する。
- 注：2018年4月20日以前に入会の青年会員には入会当時の会費規則を適用する。

## ● 会員名簿

(2024 年度末現在) 敬称略

### 1. 名誉会員：5 名

Dr. Gross, Helmut      Haimer, Heyo E.      Hofmann, Klaus R.

Dr. Knof, Wolfgang      Dr. Stickel, Gerhard

### 2. 法人会員：3 法人

城島印刷（株）、西部ガス（株）、篠原公認会計士事務所グループ

### 3. 個人会員：105名 ○印は2024年度新入会員

明石英俊、麻生誠、荒木啓子、池田紘一、池田園子、池田奈央、石川充ユージン、  
今井宏昌、梅野健、白井和実、江口舞、

大澤遼可、大野奈美、岡嶋泰一郎、岡嶋美佐子、小黒康正、落合桃子、折登美紀、  
尾張充典

垣本知子、加藤元也、加藤道子、川上達也、喜多村由布子、

桑原康子、剣持邦彦、神代正臣、古賀浩一、古賀淳子、古賀友子、児島裕哲、

マーレン・ゴツィック、小沼和夫、小松和子

堺雅志、坂本隼人、佐田正之、佐藤秀美、東雲由実、篠原俊、渋田知恵、清水真弓、

マーティン・シュトロートホフ、アントン・シュヴァイツァー、白土浩司、

○白水健太、須藤秀平、清家未来、瀬戸泰生

高崎隆一、高木康裕、高柳英子、立花雅子、楯岡和子、

瀧下真由美、竹下亜希子、田口武史、○田中秀昌、谷口博文、土井美弥子、

土井和重、藤真理、冨重純子

中里公哉、長澤和賀子、永野秀子、中村和子、中村直樹、永元康夫、二本木一哉

○樋口彦士、平野智香、平松智久、東原正明、福嶋まみ、福元圭太、

藤野成爾、船津邦比古、スウェン・ホルスト、ホルスト陽子、本田和親、堀義行

松本浩二郎、三浦裕子、御手洗淳、御手洗史子、南優美、宮崎亮、ヴォルフガング・ミヒェル、

村上康子、村上浩明、森永誠之

安川洋、山崎勝幸、山本明子、山本成宏、○吉田寛美、横川洋、横川寛、吉富惟亮

アンドレ・ライヒャルト

脇崇晴、渡邊秀水、渡部正和、渡邊裕一

## 編集後記

本当に厳しい夏でした。昨年度もこの編集後記を「異例の夏」から書き始めたのですが、もう毎年この過酷な熱暑が当たり前のように繰り返されてしまうのでしょうか。

西日本日独協会では今年度、例会やクリスマスパーティーなど、毎年恒例の活動を滞りなく遂行することができました。こんな繰り返しならば大歓迎ですね。今号には、壁の崩壊とドイツ再統一に関わる記事が二つ掲載されていますが、あの大変革によって生まれる新世界を、当時の私たちはどのようにイメージしていたのでしょうか。35年経った現在の政治状況を鑑みると、複雑な思いにとらわれます。未来の予測などできませんが、変化がすべての人間と、すべての生き物にとって優しいものであるよう祈るばかりです。

2025年5月に開催された鈴木結生氏の講演会、報告では書ききれなかった話題をもう一つ。ゲートはあるとき、サイン代わりに「愛は悲喜を分かち合い想い続ける愛」という言葉を円環状に書いた。この逸話を気に入った鈴木氏は、自らも循環する言葉のサインを考案したとのこと。最新作『携帯遺産』（2025年、朝日新聞出版）でも、J.ジョイス『ユリシーズ』から“*Yes I said yes I will Yes*”という言葉が引用されています。LiebeとJaで繋がる世界、いいなあと思います。

広告をご提供して下さった各社に、心よりお礼申し上げます。皆様のおかげで、西日本日独協会はなごやかに、ぐるぐる回り続けています。

2024年度 年報編集委員会委員長 田口武史  
(委員 藤真理、富重純子、中村直樹、池田奈央)

### 西日本日独協会年報 第49号 (2025)

Jahresbericht 49 der Japanisch-Deutsche Gesellschaft Westjapan 2025

発行 令和7(2025)年11月18日

発行者 西日本日独協会会長 岡嶋泰一郎

編集 西日本日独協会年報編集委員会

発行所 **西日本日独協会**

〒810-0012 福岡市中央区白金2-9-6 城島印刷株式会社 気付

**Japanisch-Deutsche Gesellschaft Westjapan, Fukuoka**

Präsident : Dr. Taiichiro Okajima

Büro : c/o Kijima-Insatsu, 2-9-6 Shirogane Chuo-ku,  
Fukuoka 810-0012, Japan

Tel/Fax : 092-524-0059

E-mail : [info@jdg-nishinihon.org](mailto:info@jdg-nishinihon.org) URL : <https://jdg-nishinihon.org>

郵便振替 口座番号 : 01720-3-23959 名義人 : 西日本日独協会

福岡銀行 屋形原支店 普通預金 口座番号 : 1194549

名義人 : 西日本日独協会会長 岡嶋泰一郎

印刷 城島印刷株式会社

〒810-0012 福岡市中央区白金2丁目9-6

Tel 092-531-7102(代) Fax 092-524-4411